

## 第4章 鳥類

### 1 鳥類調査

#### 1-1 本業務の目的

吉野川河口は、ラムサール条約における東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ保護区ネットワークに登録されており、シギ・チドリ類の渡りの中継地として重要な地域となっている。吉野川河口を渡りの中継地(餌場・休息場)として利用しているシギ・チドリ類について調査を実施し、生息実態を把握することを目的とする。

#### 1-2 調査内容

表 1-2-1 調査内容一覧表

項目		調査内容	地点数	調査時期
鳥類調査	1. 指標種生息状況調査	種名、個体数、行動(摂餌、休息、飛翔、ディスプレイ等)	全域	(3/18、4/29) (9/8、9/23、11/18)
	2. 飛翔状況調査	種名、個体数、行動目的、飛翔経路、飛翔高度		(3/17、5/3) (9/9、9/24、11/19)
	3. 繁殖状況調査	巣位置、粒度組成、貫入抵抗、植生密度	14地点	8/23、8/29

#### 1-3 調査位置



図 1-3-1 鳥類調査エリア区分

1-4 調査方法

1-4-1 指標種生息状況調査(シギ・チドリ類・ホウロクシギ)

現地調査時期：平成 18 年 4 月 29 日(春の渡り後期)、平成 18 年 9 月 8 日(秋の渡り前期)  
 平成 18 年 9 月 23 日(秋の渡り前期)、平成 18 年 11 月 18 日(秋の渡り後期)  
 平成 19 年 3 月 18 日(春の渡り前期)に実施した。

調査に際しては、過年度同様に東環状大橋予定箇所の上流を 4 エリアに分けた。

観察には、設定した各調査エリアに対して、20～60 倍程度の望遠鏡および 8～10 倍程度の双眼鏡を用い、1 回の調査につき日中の干潮時間を中心に前後 2 時間で合計 5 時間の観察を行った。

記録は毎正時より開始し、1 時間毎に各エリアの担当区域内の種名、個体数、群れの位置、行動(採餌、飛翔など) 移動発着点などを 1 回記録した。

なお、各時間帯の調査終了後、できる限りホウロクシギの採餌行動の観察を実施した。

表 1-4-1 現地調査実施日の潮位等

	調査項目	生息状況調査 4地点		飛翔状況調査 2地点		繁殖状況調査 -	
		時刻	潮位 (D.L.+cm)	時刻	潮位 (D.L.+cm)	時刻	潮位 (D.L.+cm)
春季調査	調査時間	4月29日	12:00～17:00 (晴)	5月3日	9:00～18:00 (晴)		
	干潮(小松島)		0:31	68	3:06	106	
	満潮(小松島)		6:28	174	7:20	141	
	干潮(小松島)		12:55	6	15:31	35	
	満潮(小松島)		19:37	175	23:11	122.8	
	日出-南中-日入(徳島)		15:00 - 11:59 - 18:44		5:11 - 11:59 - 18:47		
	調査時間	9月8日	10:00～14:00 (晴)	9月9日	10:00～14:00 (晴)	8月24日 (晴)	
秋季調査	干潮(小松島)		0:03	87	0:37	68	0:17
	満潮(小松島)		6:01	215	6:48	221	6:07
	干潮(小松島)		12:22	34	12:56	50	12:26
	満潮(小松島)		18:43	210	19:11	214	18:53
	日出-南中-日入(徳島)		5:40 - 12:00 - 18:19		5:40 - 11:59 - 18:17		5:29 - 12:04 - 18:39
	調査時間	9月23日	10:00～14:00 (晴)	9月24日	10:00～14:00 (晴)		
	干潮(小松島)		0:12	73	0:37	67	
	満潮(小松島)		6:24	190	6:55	190	
	干潮(小松島)		12:25	67	12:48	70	
	満潮(小松島)		18:34	193	18:54	189	
	日出-南中-日入(徳島)		5:50 - 11:54 - 17:58		5:51 - 11:54 - 17:56		
	調査時間	11月18日	8:00～12:00 (晴)	11月19日	8:00～12:00 (晴)		
	干潮(小松島)		10:29	78	10:59	87	
	満潮(小松島)		4:40	148	5:12	161	
干潮(小松島)		22:41	41	23:14	38		
満潮(小松島)		16:17	158	16:47	174		
日出-南中-日入(徳島)		6:37 - 11:47 - 16:56		6:38 - 11:47 - 16:56			
冬季調査	調査時間	3月18日	10:00～15:00 (晴)	3月17日	8:00～17:00 (晴)		
	干潮(小松島)		11:53	93	11:10	113	
	満潮(小松島)		6:26	163	5:56	162	
	干潮(小松島)		-	-	23:22	13	
	満潮(小松島)		17:15	156	16:05	160	
	日出-南中-日入(徳島)		6:09 - 12:10 - 18:11		6:11 - 12:10 - 18:11		

TPをD.L.に換算した。  
 気象庁 徳島地方気象台 (<http://www.osaka-jma.go.jp/tokushima/>) による。  
 平成18年4月29日(春の渡り後期) 平成18年9月8日(秋の渡り前期)  
 平成18年9月23日(秋の渡り前期) 平成18年11月18日(秋の渡り後期)  
 平成19年3月18日(春の渡り前期)に実施した。

1-4-2 飛翔状況調査(シギ・チドリ類)

現地調査時期：平成 18 年 5 月 3 日(春の渡り後期)、平成 18 年 9 月 9 日(秋の渡り前期)  
 平成 18 年 9 月 24 日(秋の渡り前期)、平成 18 年 11 月 19 日(秋の渡り後期)  
 平成 19 年 3 月 17 日(春の渡り前期)に実施した。

東環状大橋予定箇所付近と上流にある吉野川大橋の 2 箇所に St.h1 (東環状大橋予定箇所) と St.h2 (吉野川大橋) の調査定点を設定した。使用機材は生息状況調査と同様のものを使用した。

調査時間帯は指標種生息状況調査と同様に、干潮時間を中心に前後 2 時間で合計 5 時間の連続観察とするが、観察は過年度調査結果や埽から餌場への埽立ち(朝)、餌場から埽への埽入り(夕)の移動を考慮して、朝 8 時～夕 5 時まで行った(次頁参照)。

記録は、飛翔経路、飛翔高度(下表・下図参照)、時間帯、行動(採餌、飛翔など)などを、移動発着点に留意しながら記録した。

表 1-4-2 調査箇所における飛翔高度区分

東環状大橋予定箇所：4 区分		吉野川大橋：3 区分	
0-10m	a	架橋より下	A
10-15m	b	架橋より上空 10m	B
15-20m	c	架橋上空 10m 以上	C
20m 以上	d		

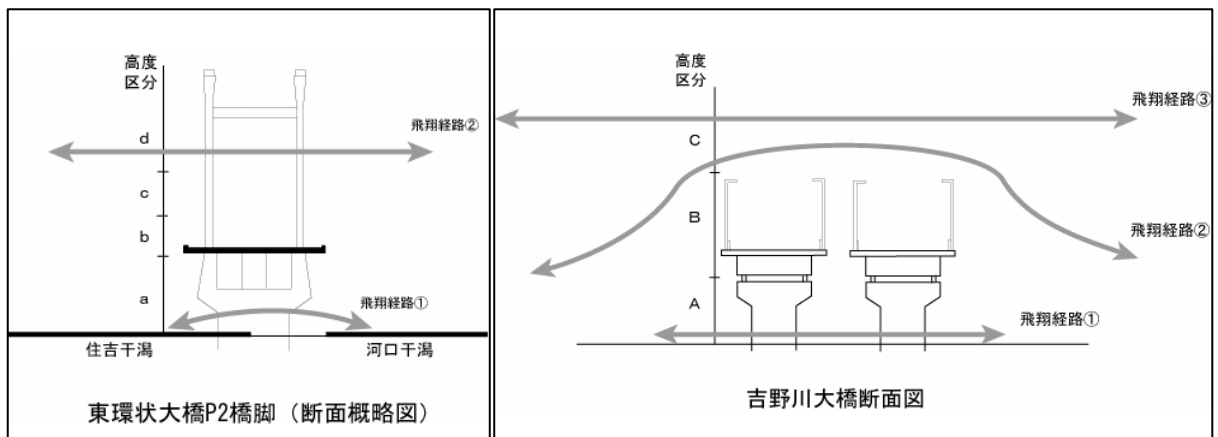


図 1-4-1 調査箇所における飛翔高度区分

表 1-4-7 時間帯・飛翔高度帯別個体数(東環状大橋予定箇所:シギ・チドリ類)

時間帯	a:0~10m				b:10~15m				c:15~20m				d:20m~				計
	5/15	5/16	9/24	9/25	5/15	5/16	9/24	9/25	5/15	5/16	9/24	9/25	5/15	5/16	9/24	9/25	
6:00	16	23	12	5									6			62	
7:00	18	16	50	4	4								41			133	
8:00	25	53	68	69	72		3									290	
9:00	19	105	8	43				11					16	1		256	
10:00	21	30	12	1									2	63		129	
11:00	16	29	12	90					105							304	
12:00	17	24	3	1					1							46	
13:00	20	218	13	83									14	320	42	775	
14:00	21	78	6	4			9		1						25	144	
15:00	11	3	5	16	1		3	1				6	5	4	10	65	
小計	184	579	189	316	77	0	15	12	107	0	6	29	123	320	77	170	
合計	1268				104				142				690				2204

表 1-4-8 時間帯・飛翔高度帯別個体数(吉野川大橋:シギ・チドリ類)

時間帯	A:橋の下				B:橋の上10mまで				C:橋の上10m以上				計
	5/15	5/16	9/24	9/25	5/15	5/16	9/24	9/25	5/15	5/16	9/24	9/25	
6:00			4			1			2				7
7:00			1	1			2		26				30
8:00	1								1		2	35	39
9:00	4									9		19	32
10:00	2											1	3
11:00	60		1				2					2	65
12:00	1								43				44
13:00						38						41	79
14:00	4												4
15:00		1	2							2			5
小計	72	1	8	1	0	41	2	0	72	11	2	98	308
合計	82				43				183				308

平成 15 年度 徳島東環状線 東環状大橋 (仮称) 環境モニタリング調査より抜粋

表 48 時間帯・飛翔高度帯別個体数 (東環状大橋予定箇所:チドリ科・シギ科)

調査方法:飛翔状況調査  
調査会社名:三井共同建設コンサルタント㈱  
調査員氏名:山崎 崇、黒木 利幸

時間帯	橋:通過せず				a:0~10m				b:10~15m				c:15~20m				d:20m以上				計
	4/8	4/23	9/15	10/1	4/8	4/23	9/15	10/1	4/8	4/23	9/15	10/1	4/8	4/23	9/15	10/1	4/8	4/23	9/15	10/1	
6:00		2				3														5	
7:00																				0	
8:00			1																17	18	
9:00																				0	
10:00				3			3													6	
11:00		1				15	1													17	
12:00		4	2		45	5	1													58	
13:00		1			59															60	
14:00			2				1						2							5	
15:00						1		20												21	
16:00						5	3		1										8	15	
17:00		18				28	9													27	
小計	0	20	4	4	104	28	17	20	0	1	0	0	2	0	0	0	0	23	0	230	
合計	24				170				1				2				23				230

注) 定位記録法により、各時間帯に出現した鳥類の個体を記録した。  
1時間当たりの鳥類の個体数は可能な限り重複しないように計数したが、各調査定点間を移動した個体も含むため、実際の個体数よりも多く、延べ確認個体数を意味する。

表 49 時間帯・飛翔高度帯別個体数 (吉野川大橋:チドリ科・シギ科)

調査方法:飛翔状況調査  
調査会社名:三井共同建設コンサルタント㈱  
調査員氏名:山崎 崇、黒木 利幸

時間帯	橋:通過せず				A:橋の下				B:橋の上10mまで				C:橋の上10m以上				計			
	4/8	4/23	9/15	10/1	4/8	4/23	9/15	10/1	4/8	4/23	9/15	10/1	4/8	4/23	9/15	10/1				
6:00		2																		2
7:00						3		3												6
8:00	2		17	3																22
9:00			40	6	2															48
10:00			8	6	4															21
11:00			5	3	3												2			13
12:00			8	1	1							1								11
13:00			5	9	2															16
14:00			3	1	1															16
15:00				2									4						7	16
16:00													1							4
17:00		1	2		1														1	5
小計	2	7	4										6	5	0	0	5	9	0	13
合計	154				3				6				14				91	177		

注) 定位記録法により、各時間帯に出現した鳥類の個体を記録した。  
1時間当たりの鳥類の個体数は可能な限り重複しないように計数したが、各調査定点間を移動した個体も含むため、実際の個体数よりも多く、延べ確認個体数を意味する。

平成 16 年度 緊急地方道路整備事業 徳島東環状線 徳島市吉野町 2 丁目 ~ 北沖洲 4 丁目 (第 30 分割)より抜粋

表Ⅱ-38 時間帯・飛翔高度帯別個体数 (St. h1: 東環状大橋予定箇所: チドリ科・シギ科)

時間帯	飛 過 境 界 外				a 0~10m				b 10~15m				c 15~20m				d 20m以上				計		
	4/13	4/25	9/2	9/17	4/13	4/25	9/2	9/17	4/13	4/25	9/2	9/17	4/13	4/25	9/2	9/17	4/13	4/25	9/2	9/17			
6:00	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
7:00	0	0	0	0	0	10	47	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	77
8:00	0	0	0	0	0	18	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288	0	64	424	
9:00	0	0	0	0	0	22	17	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	
10:00	0	0	0	0	0	45	44	40	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	116
11:00	0	0	0	0	0	40	49	1	13	0	1	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	133
12:00	0	0	0	0	0	27	23	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
13:00	0	0	0	0	0	19	2	15	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52
14:00	0	0	0	0	0	5	58	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72
15:00	0	0	0	0	0	34	150	1	0	0	39	2	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0	207
16:00	0	0	0	0	0	32	119	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180
17:00	0	0	0	0	0	9	163	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	179
小計	0	0	0	0	0	254	567	159	54	20	52	2	6	20	36	0	24	18	309	0	118	1145	
合計					1144				90				80								441		

表Ⅱ-39 時間帯・飛翔高度帯別個体数 (St. h2: 吉野川大橋: チドリ科・シギ科)

時間帯	飛 過 境 界 外				A 橋の下				B 橋の上10mまで				C 橋の上10m以上				計					
	4/13	4/25	9/2	9/17	4/13	4/25	9/2	9/17	4/13	4/25	9/2	9/17	4/13	4/25	9/2	9/17						
6:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	13
7:00	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	16	3	0	0	0	0	34
8:00	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	21
9:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	15
10:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
11:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
12:00	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5
13:00	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
14:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
15:00	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	15
16:00	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	40	2	0	0	0	0	54
17:00	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	9	73	0	0	0	0	84
小計	0	0	0	0	0	0	39	3	0	0	0	1	0	0	9	178	5	15	0	0	0	250
合計					42				1				1								207	

平成 17 年度 緊急地方道路整備事業 徳島東環状線 徳島市吉野町 2 丁目～北沖洲 4 丁目 (第 62 分割)より抜粋

1-4-3 繁殖状況調査(コアジサシ・オオヨシキリなど)

現地調査時期：平成 18 年 8 月 23 日、平成 18 年 8 月 29 日で実施した(育雛時の接近は巣の放棄に至る可能性があるため、営巣地の調査は、繁殖期後に設定した)。



オオヨシキリのソングポスト

繁殖期の鳥は、一定のなわばりを持ち、特定の場所(ソングポスト)で囀ることが多い。オオヨシキリにもこの行動が顕著であるため、調査に先立って、求愛行動やソングポストの観察を他の調査時(6~7 月)に行い、営巣地の位置の絞り込みを行っておいた。

オオヨシキリの営巣地に対しては、営巣地の分布位置、巣の高さ、巣に利用しているヨシの本数・茎径を記録するとともに、周辺のヨシに対して「植生調査高茎草本群落調査」と同様に、0.25×0.25m の方形枠を 2 点/箇所を設定し、の密度・茎径について観察・記録した。さらに、「底生生物 ヨシ原調査」の地点においても同様の計測を実施し、オオヨシキリの営巣地周辺との比較を行った。

コアジサシやオオヨシキリ以外の種についても繁殖が確認できた場合、記録することとした。

1-5 指標種生息状況調査

1-5-1 調査結果の概要

今年度より干潟の底生動物を餌量とするシギ科・チドリ科の鳥類を調査対象とした。また、ミヤコドリもシギ科・チドリ科同様に底生動物（主に二枚貝類）を主食とするため調査対象とした。

現地調査により、18種のシギ・チドリを確認した(表 2-2-1 参照)。ミヤコドリは調査時間外にのみ確認された。

4月29日調査では17種 1,312 個体、9月8日調査では14種 609 個体、9月23日調査では11種 358 個体、11月18日調査では6種 5,112 個体、3月18日には956 個体の鳥類を確認した。種数は4月29日調査が最も多かったが、個体数は11月18日調査が最も多い結果となった。

表 1-5-1 生息状況調査出現種一覧

目名	科名	和名	4月29日	9月8日	9月23日	11月18日	3月18日	合計	備考	
チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ							NT	
		チドリ		1					1	
			シロチドリ	6	29	164	388	35	622	VU
			メダイチドリ	33	3	9			45	
			オオメダイチドリ	1	1				2	NT
			ダイゼン	234	292		262	170	958	
		シギ	キョウジョシギ	29					29	
			トウネン	15	4	16	3	1	39	
			ハマシギ	730	11	19	4,427	716	5,903	
			コオバシギ	1					1	
			オバシギ	6	1				7	
			ミコビシギ	14	34		18	7	73	
			アオアシシギ		1	12			13	
			キアシシギ	5	37	1			43	
			イソシギ	17	6	7	13	1	44	
			ソリハシシギ	4	161	106			271	
			オオソリハシシギ	17		18			35	
			ホウロクシギ		1	4			19	VU
		チュウシャクシギ	199	21	2			222		
		シギ科の一種		7		1	7	15		
1目	3科	20種	種類数 17種	14種	11種	6種	7種	18種	8種	
			個体数 1,312	609	358	5,112	956	8,347	—	

注1: 文献「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状 - 環境庁編 脊椎動物編 1993年」

注2: 「」は調査時間外に調査範囲で確認した種

注3: 「シギ科の一種」は種類数に含まない

注4: 個体数は全カウントの延べ数

注5: 備考の丸数字は注目すべき種の選定基準番号

注6: 備考の はすべて、調査日以外で確認された標識付きの個体である

国の天然記念物及び特別天然記念物(文化財保護法 1950)

特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(1993) 記載種

内: 国内希少野生動物 外: 国際希少野生動物

改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 鳥類 (環境省編 2002) 記載種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 A類 EN: 絶滅危惧 B類

VU: 絶滅危惧 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 - 徳島県版レッドデータブック - (徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会 2001) 記載種

EX: 絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 類 VU: 絶滅危惧 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 地域個体群 AN: 留意

フラッグまたは標識付きのシギ・チドリ類などの鳥類

表 1-5-2 調査時期別出現種一覧表 - 4月29日 -

	目名	科名	和名	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	合計	
1	チドリ	チドリ	コチドリ		1			1	
2			シロチドリ	2	2	1	1	6	
3			メダイチドリ		22	11		33	
4			オオメダイチドリ		1			1	
5			ダイゼン	3	101	59	71	234	
6		シギ	キョウジョシギ		3	26		29	
7			トウネン		1	14		15	
8			ハマシギ	24	444	246	16	730	
9			コオバシギ			1		1	
10			オバシギ		2	4		6	
11			ミユビシギ	7	7			14	
12			キアシシギ		2	3		5	
13			イソシギ			14	3	17	
14			ソリハシシギ		1	1	2	4	
15			オオソリハシシギ			12	5	17	
16			チュウシャクシギ		46	66	87	199	
				種類数	4	13	13	7	16
				個体数	36	633	458	185	1,312

表 1-5-3 調査時期別出現種一覧表 - 9月8日 -

	目名	科名	和名	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	合計	
1	チドリ	チドリ	シロチドリ		29			29	
2			メダイチドリ		3			3	
3			オオメダイチドリ			1		1	
4			ダイゼン	22	49	120	101	292	
5		シギ	トウネン		3		1	4	
6			ハマシギ	6			5	11	
7			オバシギ		1			1	
8			ミユビシギ	23	10		1	34	
9			アオアシシギ			1		1	
10			キアシシギ		2	18	17	37	
11			イソシギ				6	6	
12			ソリハシシギ	1	43	69	48	161	
13			ホウロクシギ		1			1	
14			チュウシャクシギ	1	2	9	9	21	
			シギ科の一種		6		1	7	
				種類数	7	11	7	10	16
				個体数	59	143	218	189	609

表 1-5-4 調査時期別出現種一覧表 - 9月23日 -

	目名	科名	和名	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	合計
1	チドリ	チドリ	シロチドリ	49	115			164
2			メダイチドリ		9			9
3		シギ	トウネン		13	3		16
4			ハマシギ	1	16	2		19
5			アオアシシギ		4	1		5
6			キアシシギ				1	1
7			イソシギ			1	6	7
8			ソリハシシギ	16	52	28	10	106
9			オオソリハシシギ		9	6	3	18
10			ホウロクシギ		2	2		4
11			チュウシャクシギ			2		2
				種類数	3	8	4	15
				個体数	66	220	45	351

表 1-5-5 調査時期別出現種一覧表 - 11月18日 -

	目名	科名	和名	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	合計	
1	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ					-	
2		チドリ	シロチドリ	40	317	18	13	388	
3			ダイゼン	2	187	36	37	262	
4		シギ	トウネン			3		3	
5			ハマシギ	160	3975	195	97	4427	
6			ミユビシギ	9	9			18	
7			イソシギ			2	11	13	
			シギ科の一種	1				1	
				種類数	4	4	5	4	6
				個体数	212	4,488	254	158	5,112

注1:「」は調査時間外に調査範囲で確認した種

表 1-5-6 調査時期別出現種一覧表 - 3月18日 -

	目名	科名	和名	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	合計
1	チドリ	チドリ	シロチドリ		25	4	6	35
2			ダイゼン	4	112	21	33	170
3		シギ	トウネン		1			1
4			ハマシギ	16	390	76	234	716
5			ミコビシギ	2	5			7
6			イソシギ				1	1
7			ホウロクシギ				19	19
		チドリ目の一種	7				7	
		種類数	3	5	3	5	7	
		個体数	22	533	101	293	956	

現地調査により確認したシギ科・チドリ科の調査時期別出現状況を下表にまとめる。また、個体数および種数の変動を下図に示す。

個体数は、11月18日(秋の渡り後期)が最も多く、次いで4月29日(春の渡り後期)、3月18日(春の渡り前期)、9月8日(秋の渡り前期)、9月23日(秋の渡り前期)の順である。

エリア毎にみると、エリア1で最も少なく、エリア2に個体数が集中した結果となった。顕著なものは、11月18日調査のエリア2の4,488個体中、干潮時2時間前の2,295個体のハマシギである。

表 1-5-7 調査時期別出現状況 - 平成18年度 -

調査エリア		4月29日	9月8日	9月23日	11月18日	3月18日
個体数	エリア1	23	29	73	211	29
	エリア2	634	143	220	4488	533
	エリア3	463	218	45	254	101
	エリア4	185	188	20	158	293
種数	エリア1	3	4	4	4	3
	エリア2	12	9	7	3	5
	エリア3	12	5	7	4	3
	エリア4	6	8	3	3	5

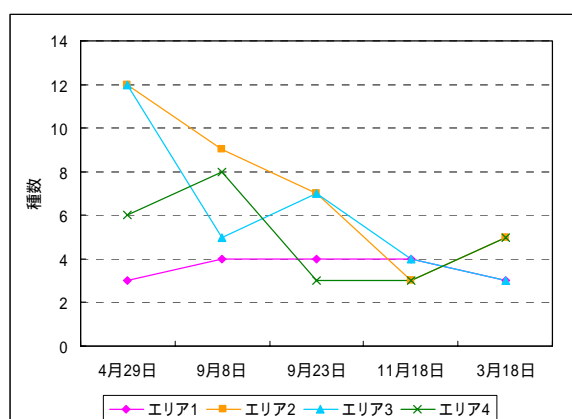
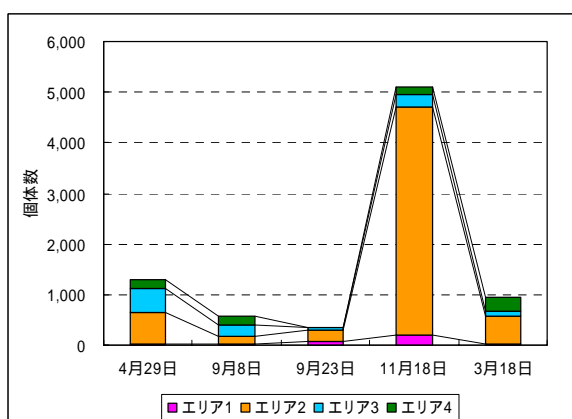


図 1-5-1 調査時間帯別出現状況 - 平成18年度 - (左:個体数、右:種数)



1-5-2 平成 18 年 4 月 29 日(春の渡り後期)

現地調査により確認したシギ科・チドリ科の時間帯別出現状況（干潮時とその前後 2 時間、計 5 時間）を表 1-5-8 に示す。また、個体数および種数の変動を図 1-5-2 に示す。

本調査では 16 種の鳥類を確認した。ダイゼン、ハマシギ、チュウシャクシギなどが多く確認された。個体数・種数は干潮 1 時間前に最小となり、干潮後にエリア 2、エリア 3 の増加が顕著である。

表 1-5-8 調査時間帯別出現状況 - 4 月 29 日 -

和名	2時間前(11:00)					1時間前(12:00)					干潮時(13:00)					1時間後(14:00)					2時間後(15:00)					最大個体数	合計				
	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計						
1 コチドリ										1				1											1	1					
2 シロチドリ										2	1			3	2											3	6				
3 メダイチドリ		2			2					9				9	5											14	33				
4 オオメダイチドリ																										1	1				
5 ダイゼン	1	18	5	5	29	1	11	6	18	36	1	14	8	28	51		15	19	6	40			43	21	14	78	234				
6 キョウジョシギ		1	10		11			3		4			1	11	12				2	2						12	29				
7 トウネン			4		4					2				2	6												3	15			
8 ハマシギ		3	14	31	48			11	10	2	23			10	21	157	152	2	332				262	43	12	317	730				
9 コオハシギ																			1	1							1	1			
10 オハシギ				1	1					1				1				1	1	2						1	2	6			
11 ミユビシギ		7			7													1	1							6	7	14			
12 キアシシギ			2		2									1	1	2										1	2	5			
13 イソシギ				14	1	15								1	1					1	1						1	17			
14 ソリハシギ			1		1														1	1						2	2	4			
15 オオソリハシギ								2	1	3				2	1	3			4	1	5				4	2	6	17			
16 チュウシャクシギ		3	19	5	27			7	8	30	45			14	16	25	55			8	16	11	35			14	7	16	37	55	199
種類数	3	6	8	3	11	1	7	8	4	10	2	5	9	4	11	1	6	9	6	12	0	8	5	5	10						
個体数	11	39	86	11	147	1	42	33	51	127	3	39	60	55	157	21	184	202	22	429	0	329	77	46	452	537	1,312				

注1)：最大個体数は時間帯毎の出現個体数を示す。

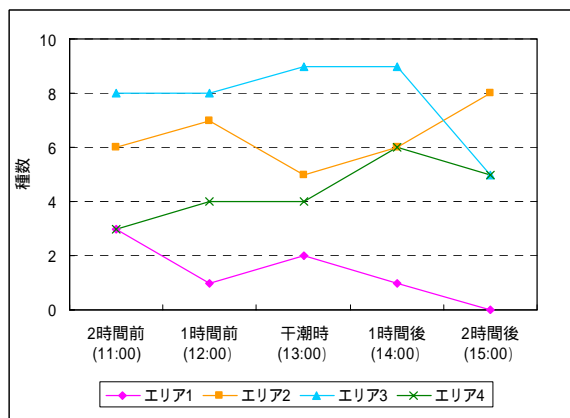
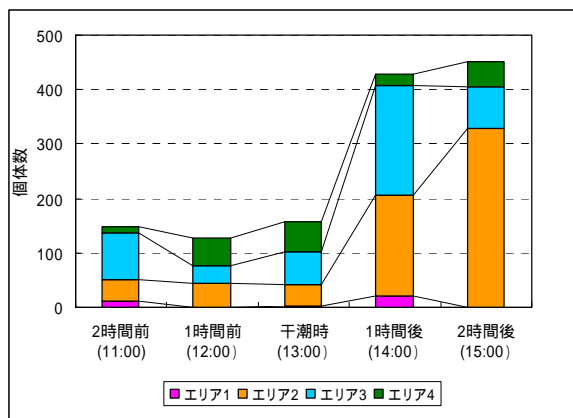


図 1-5-2 時間帯別出現状況 - 4 月 29 日 - (左：個体数、右：種数)

1-5-3 平成 18 年 9 月 8 日(秋の渡り前期)

現地調査により確認したシギ科・チドリ科の時間帯別出現状況（干潮時とその前後 2 時間、計 5 時間）を表 1-5-9 に示す。また、個体数および種数の変動を図 1-5-3 に示す。

本調査で確認された鳥類は 14 種であり、このうちダイゼンやソリハシシギなどを多く確認した。

時間帯別個体数は干潮 2 時間前に当日の最大個体数を数えた。その後減少し、干潮 1 時間前より後は大きな変化が見られなかった。種数についても同様である。

個体数の減少は、ハヤブサの影響による。出現場所はエリア 2 であり、10:40 と 11:40 に狩りに訪れ、シギ・チドリ類は河口干潟を離れた。また、11:40 分の狩りにおいて、1 羽の獲物を得たようで、気象台の鉄塔上で食事を行っているのが確認できた。

表 1-5-9 調査時間帯別出現状況 - 9 月 8 日 -

和名	2時間前(10:00)				1時間前(11:00)				干潮時(12:00)				1時間後(13:00)				2時間後(14:00)				最大個体数	合計					
	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計							
1 シロチドリ		5			5		7			7		4			4		6			6	7	29					
2 メダイチドリ		3			3																3	3					
3 オオメダイチドリ							1			1											1	1					
4 ダイゼン	18	34	32	44	128	4	4	25	13	46		3	25	24	52		2	22	11	35	6	16	9	31	128	292	
5 トウネン		3			3																1	1	3	4			
6 ハマシギ		1			1		6			7			2	2						1	1	1	1	7	11		
7 ソリハシギ		1			1					1														1	1	1	
8 ミユビシギ		1			1	17			1	18					3				3	3	9			12	18	34	
9 アオアシシギ								1		1																1	
10 キアシシギ		1	4	5	10		1	2	3	6		4	2	6		3	1	4			5	6	11	11	37		
11 イソシギ			2	2	4				1	1			2	2										1	1	2	
12 ソリハシシギ	1	11	8	11	31		7	11	7	25		15	13	12	40		4	19	10	33		6	18	8	32	40	161
13 ホウロクシギ		1			1																					1	1
14 チュウシャクシギ	1	2			3							3	3	6		3			3		3		3	3	9	21	
シギ科の一種		6			6				1	1															6	7	
種類数	4	10	3	5	12	3	4	5	7	10	0	3	4	6	7	1	3	4	5	8	1	4	4	5	8	14	
個体数	26	62	44	68	200	27	19	40	27	113	0	22	45	45	112	3	12	47	24	86	3	28	42	25	98	238	609

注1)：最大個体数は時間帯毎の出現個体数を示す。

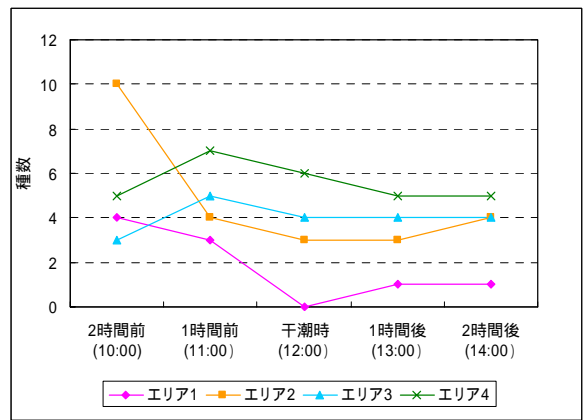
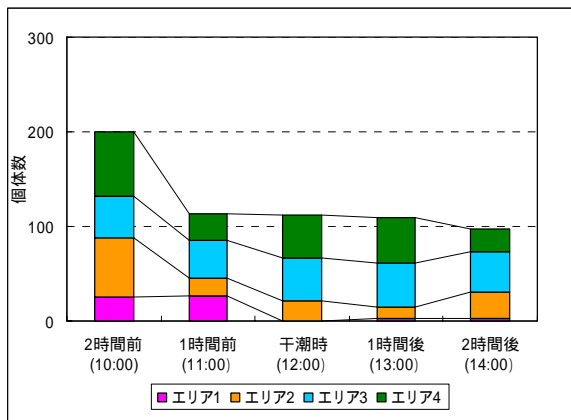


図 1-5-3 時間帯別出現状況 - 9 月 8 日 - (左：個体数、右：種数)

1-5-4 平成 18 年 9 月 23 日(秋の渡り前期)

ハウロクシギが飛来していたため、採餌状況のビデオ撮影実施に併せて、生息状況調査を実施した。

現地調査により確認したシギ科・チドリ科の時間帯別出現状況（干潮時とその前後 2 時間、計 5 時間）を表 1-5-10 に示す。また、個体数および種数の変動を図 1-5-4 に示す。

本調査で確認された鳥類は 11 種であった。シロチドリ、ソリハシシギが多く確認された。

干潮時前後 2 時間の個体数変動は、わずかであった。全体的に河口干潟を中心とするエリア 2 に集中する結果となったが、干潮 2 時間後においては河口干潟下流部のエリア 1 に集中した。

表 1-5-10 調査時間帯別出現状況 - 9 月 23 日 -

和名	2時間前(10:00)				1時間前(11:00)				干潮時(12:00)				1時間後(13:00)				2時間後(14:00)				最大個体数	合計					
	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計							
1 シロチドリ	15	17			32	32			32	32	12	30			42	22	4			26	42	164					
2 メダイチドリ		2			2	2			2	2		2			2		1			1	2	9					
3 トウネン		3			3	3			3	4	1	5	3	1	4			1		1	5	16					
4 ハマシギ		3			3	8			8	2	1	3	3	1	4	1				1	8	19					
5 オオアシシギ		1			1	1			1	1		1	1		1			1		1	1	5					
6 キアシシギ																				1	1	1					
7 イソシギ			1	2	3					2	2				2	2				1	1	7					
8 ソリハシシギ		18	8	1	27	14	5	3	22	9	6	4	19	6	7	1	14	16	5	2	1	24	106				
9 オオソリハシシギ		3			3	3			3	3	3	6			3					3	3	6	18				
10 ホウロクシギ		1			1	1			1	1		1			1							1	4				
11 チュウシャクシギ										1	1	1			1							1	2				
種類数	1	8	2	2	9	0	8	1	1	8	0	7	6	2	10	1	6	6	2	10	3	3	3	8	11		
個体数	15	48	9	3	75	0	64	5	3	72	0	53	13	6	72	12	45	14	3	74	39	10	4	5	58	97	351

注1)：最大個体数は時間帯毎の出現個体数を示す。

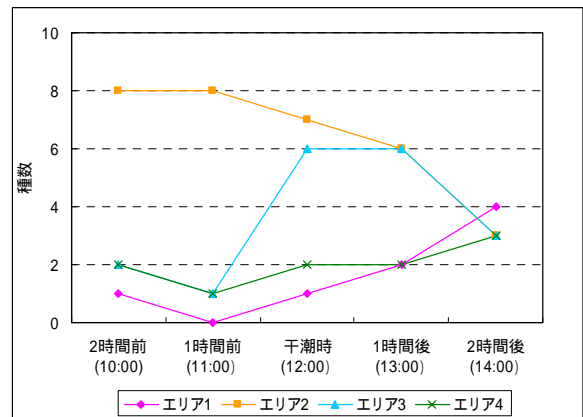
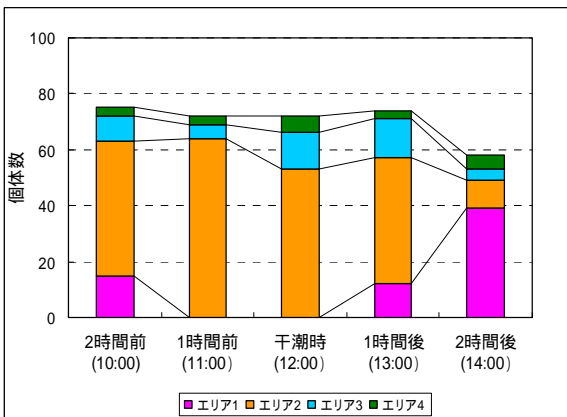


図 1-5-4 時間帯別出現状況 - 9 月 23 日 - (左：個体数、右：種数)

1-5-5 平成 18 年 11 月 18 日(秋の渡り後期)

現地調査により確認したシギ科・チドリ科の時間帯別出現状況（干潮時とその前後 2 時間、計 5 時間）を表 1-5-11 に示す。また、個体数および種数の変動を図 1-5-5 に示す。

本調査では 6 種の鳥類を確認した。このうちハマシギ、シロチドリ、ダイゼンを多く確認した。

個体数は、干潮 2 時間前に最も多い結果となった。これは、ハマシギの群れがエリア 2 に集中していたためである。干潮 2 時間前から 1 時間前にかけて急激に減少している。これは、1500 羽程度が調査区域外へ移動したためであり、調査時間内に帰っては来なかった。

表 1-5-11 調査時間帯別出現状況 - 平成 18 年 11 月 18 日 -

和名	2時間前(8:00)				1時間前(9:00)				干潮時(10:00)				1時間後(11:00)				2時間後(12:00)				最大個体数	合計						
	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計								
1 シロチドリ	4	120	5	129	16	63	6	2	87	10	13	3	1	27	7	59	3	5	74	3	62	1	5	71	129	388		
2 ダイゼン		42	1	1	44		45	5	12	62	1	62	11	11	85		38	12	9	59	1		7	4	12	85	262	
3 トウネン													1		1										1	1	3	
4 ハマシギ	8	2295		16	2319	80	524	16	38	658	48	555	79	6	688	17	571	45	20	653	7	30	55	17	109	2,319	4,427	
5 ミコヒシギ		5		2	5	2	1		2	3	4	2		6	1	1			2	2					2	6	18	
6 イソシギ				2	2			1	2	3				1	4	5				2	2					1	5	13
シギ科の一種										1																1	1	
種類数	2	4	2	3	5	4	4	4	4	6	4	4	5	4	6	3	4	4	4	6	4	2	4	4	6		7	
個体数	12	2,462	6	19	2,499	99	633	28	54	814	63	632	95	22	812	25	669	61	38	791	13	92	64	27	196	2,546	5,112	

注1)：最大個体数は時間帯毎の出現個体数を示す。

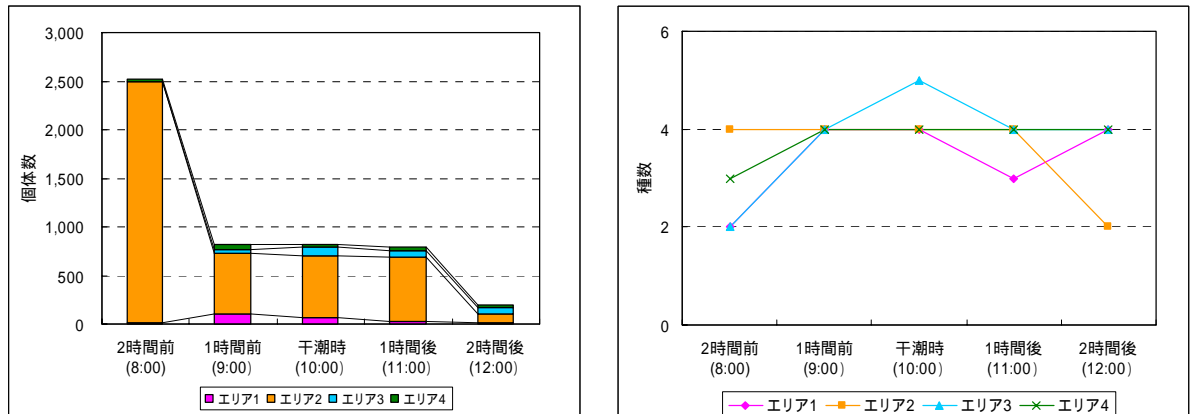


図 1-5-5 時間帯別出現状況 - 平成 18 年 11 月 18 日 - (左：個体数、右：種数)

1-5-6 平成 19 年 3 月 18 日(春の渡り前期)

現地調査により確認したシギ科・チドリ科の時間帯別出現状況（干潮時とその前後 2 時間、計 5 時間）を表 1-5-12 に示す。また、個体数および種数の変動を図 1-5-6 に示す。

本調査では 7 種の鳥類を確認した。このうちハマシギ、ダイゼンを多く確認した。

個体数は、干潮 2 時間前に最も多い結果となった。ハマシギの群れがエリア 2、エリア 4 に集中したためである。調査開始直前、ハヤブサが狩りに訪れ、エリア 2 に分布していた 1000 羽程度のシギ・チドリ類が周辺へ飛散した。その一部がエリア 4 へと移動した結果が、干潮時 2 時間前のものである。半数以上が調査範囲外へ飛散し、調査時間内に帰ってくることはなかった。

表 1-5-12 調査時間帯別出現状況 - 平成 18 年 3 月 18 日 -

和名	2時間前(10:00)				1時間前(11:00)				干潮時(12:00)				1時間後(13:00)				2時間後(14:00)				最大個体数	合計								
	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4	小計										
1 シロチドリ		1	2		3		4	2	2	8					0							11	13	35						
2 ダイゼン	1	51	5	8	65		43	3	10	56		9	2	4	15	2	5	4	6	17		1	4	7	5	17	65	170		
3 トウネン		1			1																							1	1	
4 ハマシギ	16	150	37	167	370		141	12	10	163		2		26	26		48	18	15	81			49	9	16	74	370	716		
5 ミコヒシギ	2	5			7																							7	7	
6 イソシギ																											1	1	1	
7 ホウロクシギ				4	4					4	4				4	4											2	2	5	19
8 チドリ目の一種																								7				7	7	
種類数	3	5	3	3	6	0	3	3	4	4	0	2	1	3	4	1	3	2	4	4	2	3	2	5	6			6	8	
個体数	19	208	44	179	450	0	188	17	26	231	0	11	2	34	47	2	64	22	28	116	8	62	16	26	112	469	956			

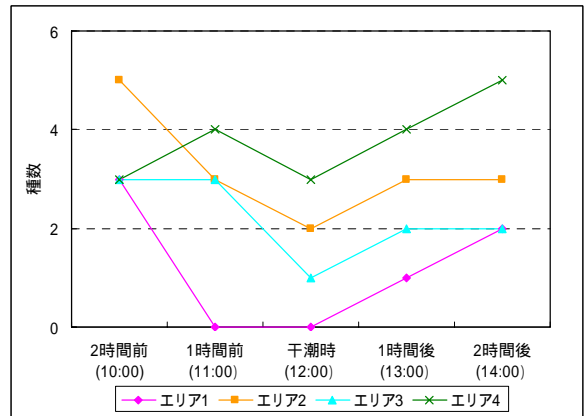
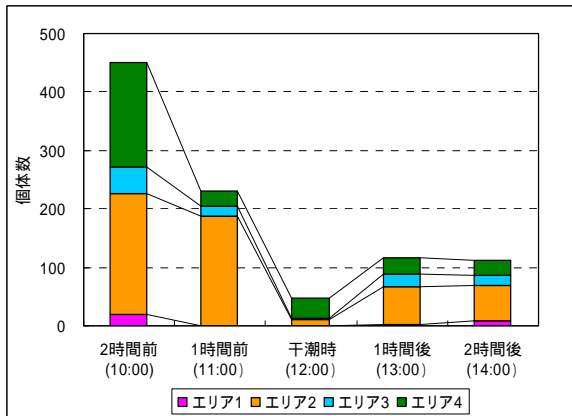


図 1-5-6 時間帯別出現状況 - 平成 18 年 3 月 18 日 - (左：個体数、右：種数)

### 1-5-7 シギ・チドリの行動

生息状況調査結果から、季節毎・エリア毎に各時間帯のシギ・チドリの行動を分析する。

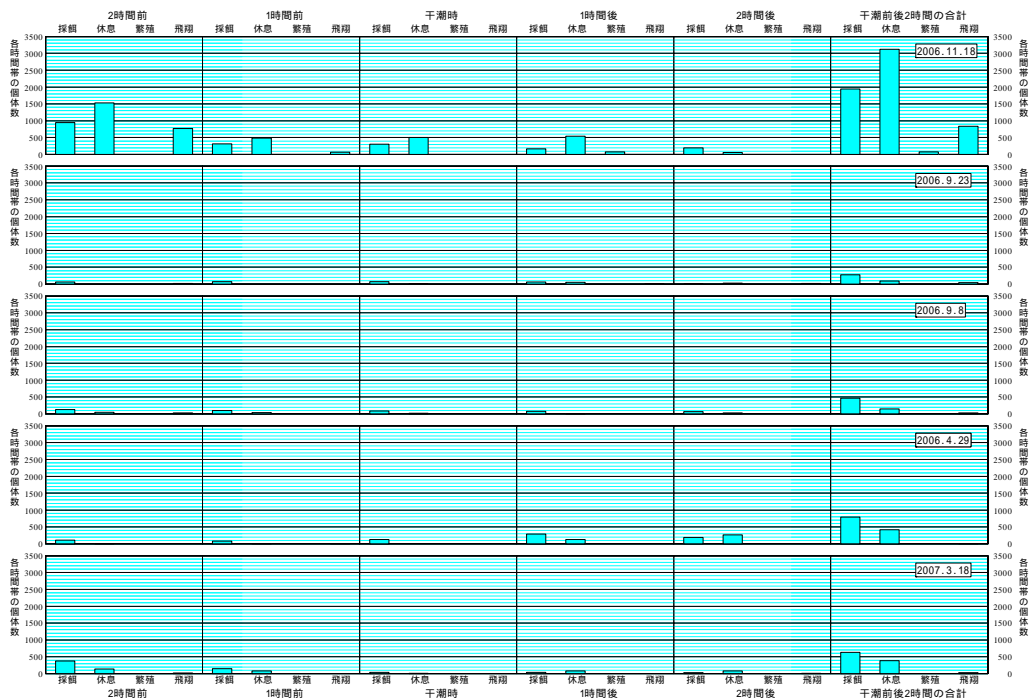


図 1-5-7 各季・各時間帯の行動別個体数

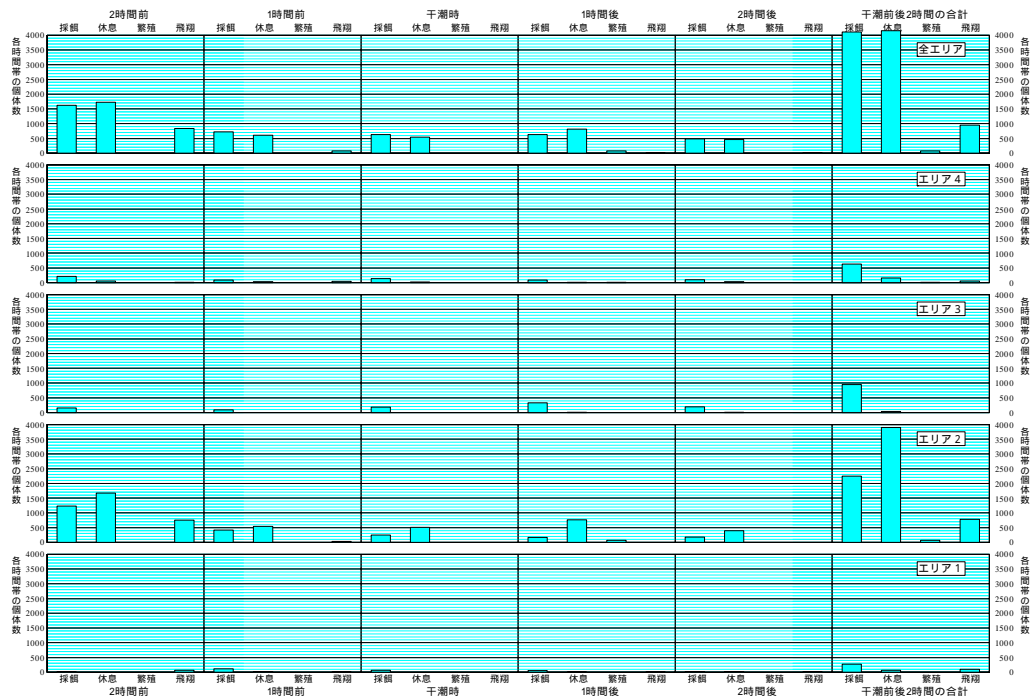


図 1-5-8 各エリア・各時間帯の行動別個体数

吉野川河口干潟は、シギ・チドリ類の餌場であり、休息場であることがわかる。特にエリア2 (河口干潟・南向き・砂質・裸地部)がその中心的な役割を担っている。

時間帯で見ると、干潮時 2 時間前に多くの個体が採餌・休息を行っていることが見える。これは、自然の営みではあるが、ハヤブサの飛来による影響を受けたことも含んでいる。飛翔状況調査も併せて、延べ 10 日の調査を実施した。そのうち、ハヤブサが調査時間帯に飛来した

のは3日であった。3日内、2日が生息状況調査日に当たり、やや、調査地周辺へ飛散した影響を強く受けた感がある。

1-5-8 シギ・チドリの出現状況の経年比較

シギ・チドリ類の出現状況について過年度との比較を行った。比較は、春季調査と秋季調査のデータを用いた。また、調査時間外の確認のみではあるが、ミヤコドリの確認状況も示した。

平成 15 年度は春季・秋季調査がそれぞれ 1 回の調査であり、他の年度は各季 2 回の調査を実施しているため、平成 15 年度データは参考値として示す。

全体的にハマシギ、ダイゼンが多く、構成種はシギ科が半数以上を占める結果となった。各年度を比較すると、出現種数・個体数ともに、多少の差はあるものの、ほぼ同様の飛来状況であると判断できる。

表 1-5-13 過年度の鳥類出現状況

No.	科	種	H15	H16	H17	H18
1	ミヤコドリ	ミヤコドリ				
2	チドリ	コチドリ	1	3	16	1
3		シロチドリ	14	587	491	458
4		メダイチドリ	33	198	195	36
5		オオメダイチドリ	2		2	2
6		ダイゼン	130	1,298	1,206	958
7		シギ	キョウジョシギ	3	17	2
8	トウネン		1	23	175	23
9	ウズラシギ		2			
10	ハマシギ		412	3,392	3,934	5,884
11	コオバシギ					1
12	オバシギ			7	7	7
13	ミユビシギ		32	271	397	73
14	アオアシシギ		4	22	13	1
15	クサシギ		1			
16	キアシシギ		23	24	56	42
17	イソシギ			8	6	37
18	ソリハシギ		25	94	192	165
19	オオソリハシギ		9	94	46	17
20	ホウロクシギ				21	20
21	チュウシャクシギ		41	59	229	220
22	タシギ			1		
-		シギ科の一種				15
		種類数	16	15	18	18
		個体数	733	6,097	6,989	7,989

- 注1) 個体数 : 干潮時前後2時間(計5回)の合計。
- 注2) 種数 : 干潮時前後2時間(計5回)の最大値。
- 注3) 調査回数 : H15 春1秋1  
H16 春2秋2  
H17 春2秋2  
H18 春2秋2
- 注4) 「」は調査時間外に確認した種

表 1-5-14 過年度調査との比較(左:個体数、右:種数)

科名	H15	H16	H17	H18
ミヤコドリ				
チドリ	180	2113	1910	1455
シギ	553	4011	5079	6534

注1) 「」は調査時間外に確認した種

科名	H15	H16	H17	H18
ミヤコドリ				
チドリ	5	4	5	5
シギ	11	11	13	13

注1) 「」は調査時間外に確認した種

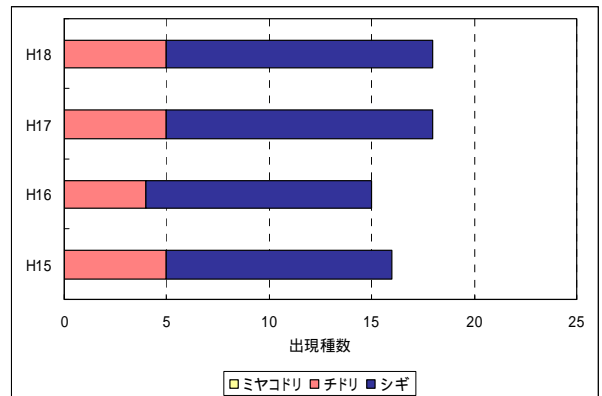
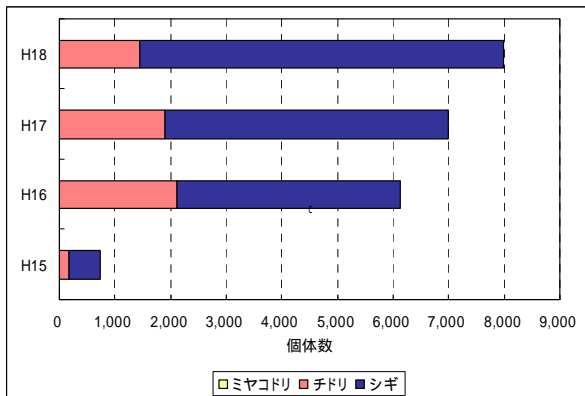


図 1-5-9 過年度調査との比較(左:個体数、右:種数)



エリア毎の個体数、種数ともにエリア2に集中した結果となった。これはエリア2が裸地で面積も広く、シギ科・チドリ科の主食となる底生生物（主に二枚貝類）が多く生息するためであると考えられる。

表 1-5-15 過年度のエリア別出現状況

	調査エリア	H15	H16	H17	H18
個体数	エリア1	14	2023	883	336
	エリア2	215	1856	3481	5797
	エリア3	257	799	773	1031
	エリア4	247	1446	1852	825
種数	エリア1	6	14	12	6
	エリア2	12	14	16	14
	エリア3	9	14	12	15
	エリア4	9	11	14	11

- 注1) 個体数 : 干潮時前後2時間(計5回)の合計。  
 注2) 種数 : 干潮時前後2時間(計5回)の最大値。  
 : シギ科の一種を除く  
 注3) 調査回数: H15 春1秋1  
 H16 春2秋2  
 H17 春2秋2  
 H18 春2秋2

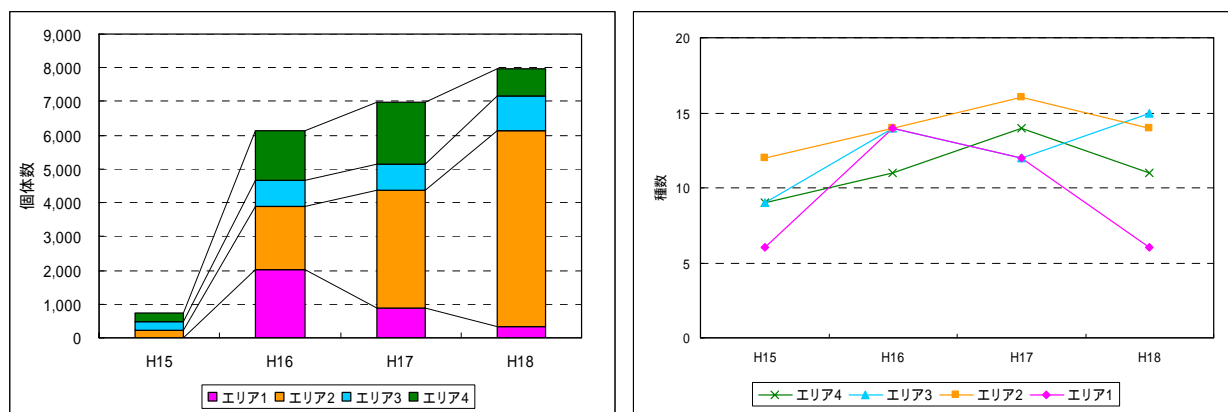


図 1-5-10 過年度のエリア別出現状況 (左: 個体数、右: 種数)

1-6 飛翔状況調査

1-6-1 飛翔状況調査結果

飛翔状況調査における確認個体数を下表に示す。

本調査で確認した鳥類は、12種であった。個体数は、前章同様、ハマシギが最も多い結果であった。飛翔は東環状大橋(仮称)予定箇所(St.h1)で多く確認することができた。

表 1-6-1 飛翔状況調査出現種一覧

No.	目名	科名	種名	調査日 エリア	5月3日		9月9日		9月24日		11月19日		3月17日		小計		合計	
					St.h1	St.h2	St.h1	St.h2	St.h1	St.h2	St.h1	St.h2	St.h1	St.h2	St.h1	St.h2		
1	チドリ	チドリ	シロチドリ		2		1				19				22		22	
2			メダイチドリ		6										6		6	
3			ダイゼン		77	12	98			3		53	9	7		238	21	259
4			シギ	トウネン		1		4								5		5
5				ハマシギ		88	88	1				1,117	345	152		1,358	433	1,791
6				キアシシギ		4		1								5		5
7				イソシギ				1				1		4	1	6	1	7
8				ソリハシシギ				43	9	16						59	9	68
9				オオソリハシシギ		5	2									5	2	7
10				ダイシャクシギ										1		1		1
11				ホウロクシギ				1							17		18	
12			チュウシャクシギ		42	27	1	1							43	28	71	
-					シギ科の一種		37		3				1	3		41	3	44
-			チドリ目の一種										50		120	120		
	1目	2科	13種	種数	8	4	9	2	2	0	4	2	5	1	12	6	12	
				個体数	262	129	154	10	19	0	1,191	427	181	51	1,807	617	2,424	

注1) St.h1: 東環状大橋(仮称)予定箇所  
St.h2: 吉野川大橋

以降、東環状大橋(仮称)予定箇所を「h1」、吉野川大橋を「h2」で表記する。

下に飛翔高度区分を示す

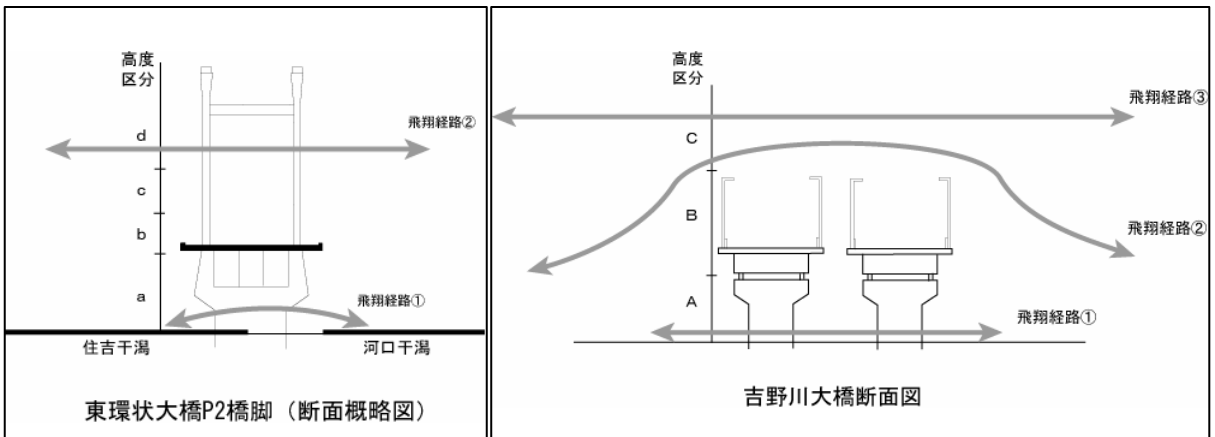


図 1-6-1 調査箇所における飛翔高度区分

時間帯・飛翔高度別個体数を表 2-3-2 および表 2-3-3 に示す。

h1 では、1,626 個体の鳥類を確認した。高度 a で最も多く 1,147 個体、高度 c で最も少なく 79 個体であった。時間帯では 12 時台に最も多く移動が見られた。

h2 においては、573 個体の鳥類を確認した。高度 C で最も多く 416 個体、B で最も少なく 20 個体であった。時間帯では 12 時台に最も多く移動がみられた。

飛翔の形態は h1 では、低空の飛翔が最も多く、これは、採餌や休息を目的として河口干潟と住吉干潟間の短距離移動によるものと考えられる。h2 では、吉野川大橋を超えるための高空の飛翔が最も多かったが、採餌や休息のための短距離移動による橋桁下の低空飛翔もみられた。

表 1-6-2 時間帯・飛翔高度別個体数 (St.h1: 東環状大橋 (仮称) 予定箇所)

時間帯	a 0~10m					b 10~15m					c 15~20m					d 20m以上					合計	
	5/3	9/9	9/24	11/18	3/17	5/3	9/9	9/24	11/18	3/17	5/3	9/9	9/24	11/18	3/17	5/3	9/9	9/24	11/18	3/17		
6:00																						
7:00																						
8:00	7	1	9	408	54				25	5											509	
9:00	28	7	1	86	108				37								1				268	
10:00	20	3		229	5				4										1		262	
11:00		12	3	2	2	3	20					20									62	
12:00	5	30	3	200	2	37			199			28									504	
13:00	14	2			1	14															31	
14:00	4	2				1					25										32	
15:00	25	3				34	16				5										83	
16:00	21	6				1	2	3		4		1									38	
17:00	16					2															18	
18:00																						
小計	140	66	16	925	172	92	38	3	265	9	30	49					1			1		
合計					1,319					407						79					2	1,807

表 1-6-3 時間帯・飛翔高度別個体数 (St.h2: 吉野川大橋)

時間帯	A 0~10m					B 10~20m					C 20m以上					合計					
	5/3	9/9	9/24	11/18	3/17	5/3	9/9	9/24	11/18	3/17	5/3	9/9	9/24	11/18	3/17						
6:00																					
7:00																					
8:00																					
9:00		7							15		2				31	50					105
10:00	1	2			1						9			67							80
11:00	13										4										17
12:00	1										4			318							323
13:00	1																				1
14:00											7										7
15:00							5								11						16
16:00		1													28						29
17:00	2														44						46
18:00																					
小計	18	10			1	5			15		109			416	50						
合計						29				20					575						624

### 1-6-2 過年度調査との比較

#### (1) St.h1 (東環状大橋(仮称) 予定箇所)

h1における飛翔状況について過年度との比較を表2-3-4、図2-3-2に示す。

平成14年度の調査時期は冬季のみである。平成15年度以降の調査は一般的な渡りのシーズン(春季・秋季)に実施した。

平成16年度は移動する個体が少なかった。平成15年度と平成17年度は高度ごとの比率が似通っており、高度aが最も多く、次に高度dが多かった。今年度では高度aがもっとも多く、次に高度bが多い結果となった。

全体的には高度aの低空を飛翔する個体が多い。

東環状大橋(仮称)の橋梁ができた場合、吉野川大橋でみられるように橋梁より上空を越える個体が増えることが考えられる。

表 1-6-4 東環状大橋(仮称)におけるシギ科・チドリ科の飛翔状況  
(平成14年度～平成18年度)

調査年度	a : 0～10m	b : 10～15m	c : 15～20m	d : 20m以上	合計
H14 (11/6,7)	380	33			413
H15 (5/15,16,9/24,25)	1,244	104	142	690	2,180
H16 (4/8,23,9/15,10/1)	170	1	2	23	196
H17 (4/13,25,9/2,17)	1,144	80	80	441	1,745
H18 (5/3,9/9,9/24,11/19,3/17)	1,319	407	79	2	1,807

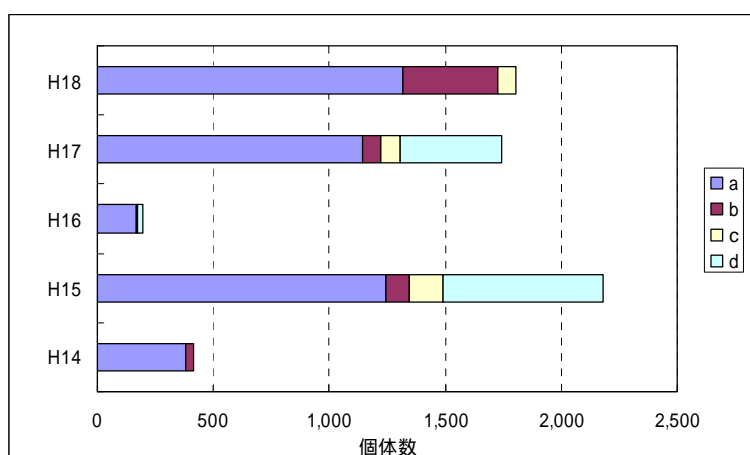


図 1-6-2 東環状大橋(仮称)におけるシギ科・チドリ科の飛翔状況  
(平成14年度～平成16年度)

(2) St.h2(吉野川大橋)

吉野川大橋における飛翔状況について、過年度の比較を表 2-3-5、図 2-3-3 に示した。

平成 14 年度は冬期調査のみであり、また、平成 16 年度は移動する個体数が少なかったため、吉野川大橋との関係は明確にはわからない。

平成 15 年度、17 年度および 18 年度はいずれも高度 C が最も多く、次に高度 A が多かった。

高度 C は吉野川大橋を超えるための高空の飛翔、高度 A は採餌や休息のための短距離移動による橋桁下の低空飛翔であると考えられる。

表 1-6-5 吉野川大橋におけるシギ科・チドリ科の飛翔状況（平成 14 年度～平成 18 年度）

調査年度	A : 0～10m	B : 10～20m	C : 20m以上	合計
H14 (1/18)	30	209	8	247
H15 (5/15, 16, 9/24, 25)	82	43	183	308
H16 (4/8, 23, 9/15, 10/1)	3	6	14	23
H17 (4/13, 25, 9/2, 17)	42	1	207	250
H18 (5/3, 9/9, 9/24, 11/19, 3/17)	29	20	575	624

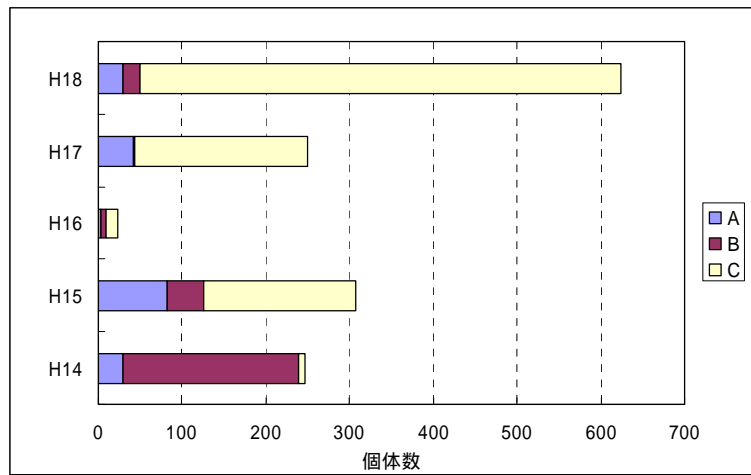


図 1-6-3 吉野川大橋におけるシギ科・チドリ科の飛翔状況（平成 14 年度～平成 18 年度）

## 1-7 繁殖状況調査

### 1-7-1 オオヨシキリ、ハシボソガラス、カルガモの繁殖状況

今回の調査で繁殖を確認した鳥類は、オオヨシキリ、ハシボソガラス、カルガモ、トビの4種であった。今回の調査ではコアジサシの繁殖行動を確認することができなかったが、4月29日エリア1において求愛給餌行動は確認された。

オオヨシキリの繁殖状況については、河口干潟に群生するアイアシ・ヨシ原で13巣（Y1～Y13）、住吉干潟中洲のヨシ原で1巣（Y14）を確認した。

4月27日にハシボソガラスの卵を4個確認し、その後、3羽の孵化と巣立ちを確認した。

6月2日にはカルガモの卵13個をシナダレスズメガヤ群落にて確認したが、10日後には1個の卵の殻を発見、残りの12個は見あたらなかった。これらは、カラスに捕食されたものと考えられる。



ハシボソガラスの卵（4個）  
営巣木はアキグミ



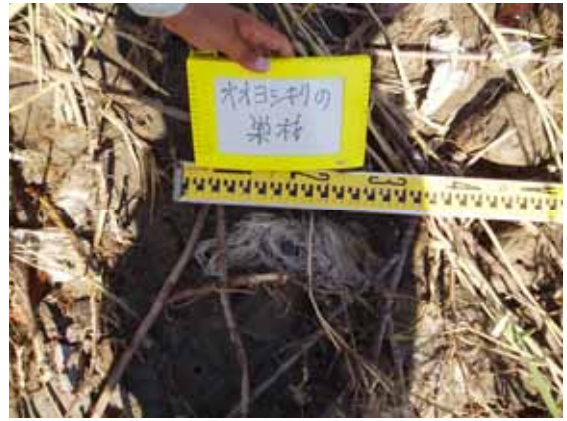
カルガモの卵の破片  
シナダレスズメガヤの群落内に抱卵  
その後、カラスに捕食されたものと考えられる



トビの卵（2個）  
営巣木はクスノキ

表 1-7-1 オオヨシキリの繁殖状況

調査地点	幹 径 (mm)	全 長 (m)	本数 (本)	地盤から巢の 高さ (cm)	備 考
Y1	25cm角	3~10	25		
	巢	3・7・8・9	4	73~80	卵の殻確認
Y2	25cm角	2~8	18		
	巢	6・7・8	3	62~70	
Y3	25cm角	3~8	24		
	巢	6・6・8	3	84~90	
Y4	25cm角	4~7	12		
	巢	4・4・5・6	4	101~109	巢にテグス 及び釣り針
Y5	25cm角	3~9	18		
	巢	6・6・7	3	80~88	
Y6	25cm角	4~10	14		
	巢	5・6・9・10	4	114~122	
Y7	25cm角	3~6	17		
	巢	5・5・6	3	106~115	
Y8	25cm角	3~10	17		
	巢	6・6・10	3	105~113	
Y9	25cm角	4~9	16		
	巢	8・9	2	67~75	巢の柱がよもぎ
Y10	25cm角	6~12	12		
	巢	6・8・9	3	155~164	
Y11	25cm角	4~8	15		
	巢	6・8・8	3	126~135	オオアレチノギク 1本 ヨシ 2本
Y12	25cm角	3~10	36		
	巢	5・9	2	86~93	
Y13	25cm角	3~10	34		
	巢	3・3	2	111~119	
Y14	25cm角	4~9	16		
	巢	4・7・7・9	4	105~113	フンの跡確認



オオヨシキリの巣材



Y1 地点 (オオヨシキリの巣と卵)

繁殖期のオオヨシキリは、一定のなわばりを持ち、特定の場所(ソングポスト)で囀ることが多い。このため、調査に先立って、求愛行動やソングポストの観察を他の調査時(6~7月)に行い、営巣地の位置の絞り込みを行っておいた結果、河口干潟には8個体、住吉干潟(中洲)には4個体の雄の縄張りがあると推定された。



オオヨシキリのソングポスト

河口干潟で発見することができた13巣の内訳は、Y1・Y2、Y3・Y4、Y5・Y6、Y7・Y8、Y9・Y10・Y11、Y12・Y13の6個体分であると推定される。残りの2個体分は、予測違いか発見能力不足であると判断される。

住吉干潟中洲においては、1巣の発見に留まった。これは、発見能力不足に加え、やや、ヨシの生育状況が河口干潟に比べ良い感触があり、植物体高や生息密度が高く、探索に支障を来したことによると考えられる。



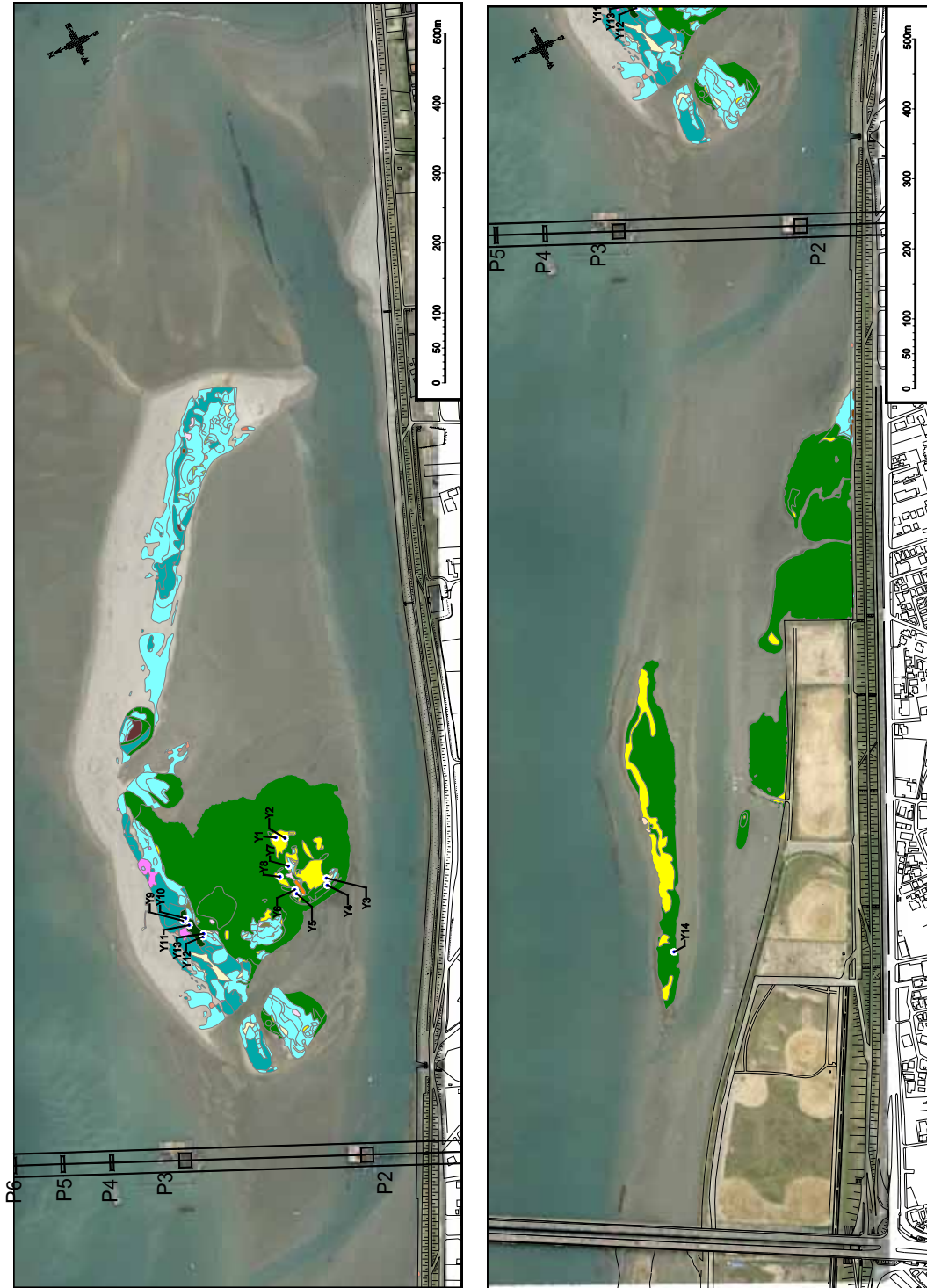


図 1-7-1 オオヨシキリ繁殖状況調査（営巣地）

1-7-2 オオヨシキリ営巣地のヨシ、アイアシ、セイタカヨシの生育状況

発見した 14 巣の基礎部植生として利用した植物は、ヨシが 7 巣、セイタカヨシが 4 巣、アイアシが 3 巣であった。

営巣地の地盤高は、ヨシ部で DL+1.628 ~ 1.906m、セイタカヨシ部で DL+2.668 ~ 3.881m、アイアシ部で DL+1.676 ~ 1.965m である。営巣地周辺のヨシ群落 15 地点 (No.6.25\_425 は営巣範囲外であるので除外) の地盤高は 1.388 ~ 1.702m である。営巣地点として、周辺よりやや高い地盤を選定しているようである。

また、植生の高さにおいても営巣地周辺のヨシ群落が 0.4 ~ 2.5m であるのに対し、営巣地ではヨシ部 1.5 ~ 2.7m、セイタカヨシ部で 1.5 ~ 2.8m、アイアシ部で 1.5 ~ 2.4m と、全体的に植生高の高いものを選ぶ傾向がみえる。

現地において当ヨシ原を眺めると、それぞれの植生高や地盤高によって、凸状部と凹状部が美しい曲面を創出している。オオヨシキリの営巣地付近は調査結果が示す通りであり、周辺より凸状に盛り上がっている地点である。

表 1-7-2 オオヨシキリ営巣地のヨシ、アイアシ、セイタカヨシの生育状況  
営巣地周辺 営巣地

羽原調査調査地点	地盤高 (D.L.+m)	幹径 (mm)	高さ (m)	本数 (本)	植生	
No. 3.5_300	1	1.674	2-5	1.00-1.80	19	ヨシ
	2	1.674	3-5	1.50-2.20	10	
No. 4.0_150	1	1.702	4-8	1.50-2.20	6	ヨシ
	2	1.702	3-8	0.85-1.85	13	
No. 4.0_250	1	1.650	3-5	0.90-1.90	7	ヨシ
	2	1.650	2-7	0.90-2.20	18	
No. 4.0_300	1	1.666	2-4	0.70-1.10	7	ヨシ
	2	1.666	3-5	1.10-1.45	6	
No. 4.5_150	1	1.698	2-4	1.10-1.70	15	ヨシ
	2	1.698	3-6	1.20-1.80	17	
No. 4.5_250	1	1.526	2-6	0.75-2.10	16	ヨシ
	2	1.526	2-6	0.95-2.00	19	
No. 4.5_300	1	1.590	2-6	0.90-1.80	16	ヨシ
	2	1.590	2-5	0.90-1.95	25	
No. 4.5_350	1	1.505	2-5	0.75-2.10	18	ヨシ
	2	1.505	2-5	0.80-1.80	17	
No. 5.0_150	1	1.388	2-5	0.75-1.40	25	ヨシ
	2	1.388	2-5	0.85-1.50	35	
No. 5.0_200	1	1.520	2-4	0.85-1.55	20	ヨシ
	2	1.520	2-5	1.00-1.50	25	
No. 5.0_250	1	1.511	2-4	0.50-1.50	20	ヨシ
	2	1.511	3-5	0.45-1.60	22	
No. 5.0_300	1	1.552	2-5	0.80-1.55	18	ヨシ
	2	1.552	2-4	0.85-1.35	24	
No. 5.5_200	1	1.537	2-6	0.55-1.50	24	ヨシ
	2	1.537	2-5	0.90-1.25	19	
No. 6.25_425	1	2.373	3-6	0.40-1.50	19	ヨシ
	2	2.373	2-8	0.45-1.45	15	
No. -7.5_300	1	1.583	4-6	1.20-2.30	16	ヨシ
	2	1.583	4-7	1.60-2.50	24	
No. -8.0_300	1	1.700	3-8	1.60-2.40	26	ヨシ
	2	1.700	4-9	1.50-2.40	22	

注1) コドラート 2.0m x 2.0m内の 25cm x 25cm 2箇所

繁殖状況調査調査地点	地盤高 (D.L.+m)	幹径 (mm)	高さ (m)	本数 (本)	地盤高から巣の高さ (cm)	植生	備考
Y1	25cm角	1.676	3-10	1.80-2.30	25		アイアシ
	巣	1.676	3・7・8・9	1.80-2.30	4	73-80	
Y2	25cm角	1.686	2-8	1.50-2.10	18		アイアシ
	巣	1.686	6・7・8	1.50-2.10	3	62-70	
Y3	25cm角	1.965	3-8	1.70-2.60	24		アイアシ
	巣	1.965	6・6・8	2.30-2.40	3	84-90	
Y4	25cm角	1.628	4-7	1.90-2.50	12		ヨシ
	巣	1.628	4・4・5・6	2.00-2.40	4	101-109	
Y5	25cm角	1.816	3-9	1.70-2.50	18		ヨシ
	巣	1.816	6・6・7	2.00-2.40	3	80-88	
Y6	25cm角	1.777	4-10	1.60-2.70	14		ヨシ
	巣	1.777	5・6・9・10	1.80-2.70	4	114-122	
Y7	25cm角	1.715	3-6	1.80-2.20	17		ヨシ
	巣	1.715	5・5・6	2.00-2.20	3	106-115	
Y8	25cm角	1.906	3-10	2.00-2.30	17		ヨシ
	巣	1.906	6・6・10	2.10-2.30	3	105-113	
Y9	25cm角	3.881	4-9	1.50-2.30	16		セイタカヨシ
	巣	3.881	8・9	1.90-2.30	2	67-75	
Y10	25cm角	3.665	6-12	2.40-2.90	12		セイタカヨシ
	巣	3.665	6・8・9	2.40-2.50	3	155-164	
Y11	25cm角	3.526	4-8	1.90-2.70	15		ヨシ
	巣	3.526	6・8・8	2.10-2.40	3	126-135	
Y12	25cm角	2.727	3-10	2.00-2.50	36		セイタカヨシ
	巣	2.727	5・9	2.00-2.50	2	86-93	
Y13	25cm角	2.668	3-10	1.60-2.80	34		セイタカヨシ
	巣	2.668	3・3	1.70-1.80	2	111-119	
Y14	25cm角	1.676	4-9	1.50-2.40	16		ヨシ
	巣	1.676	4・7・7・9	1.50-2.40	4	105-113	

注1) 巣を中心に25cm角の範囲内により調査

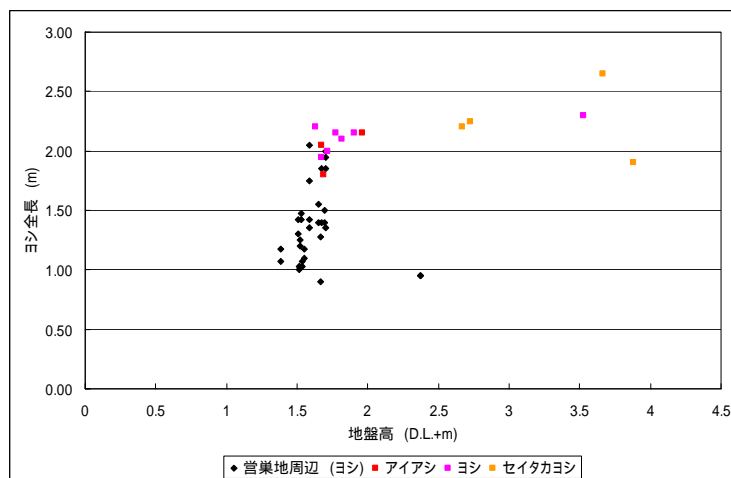


図 1-7-2 営巣地と営巣地周辺のヨシ、アイアシ、セイタカヨシの生育状況

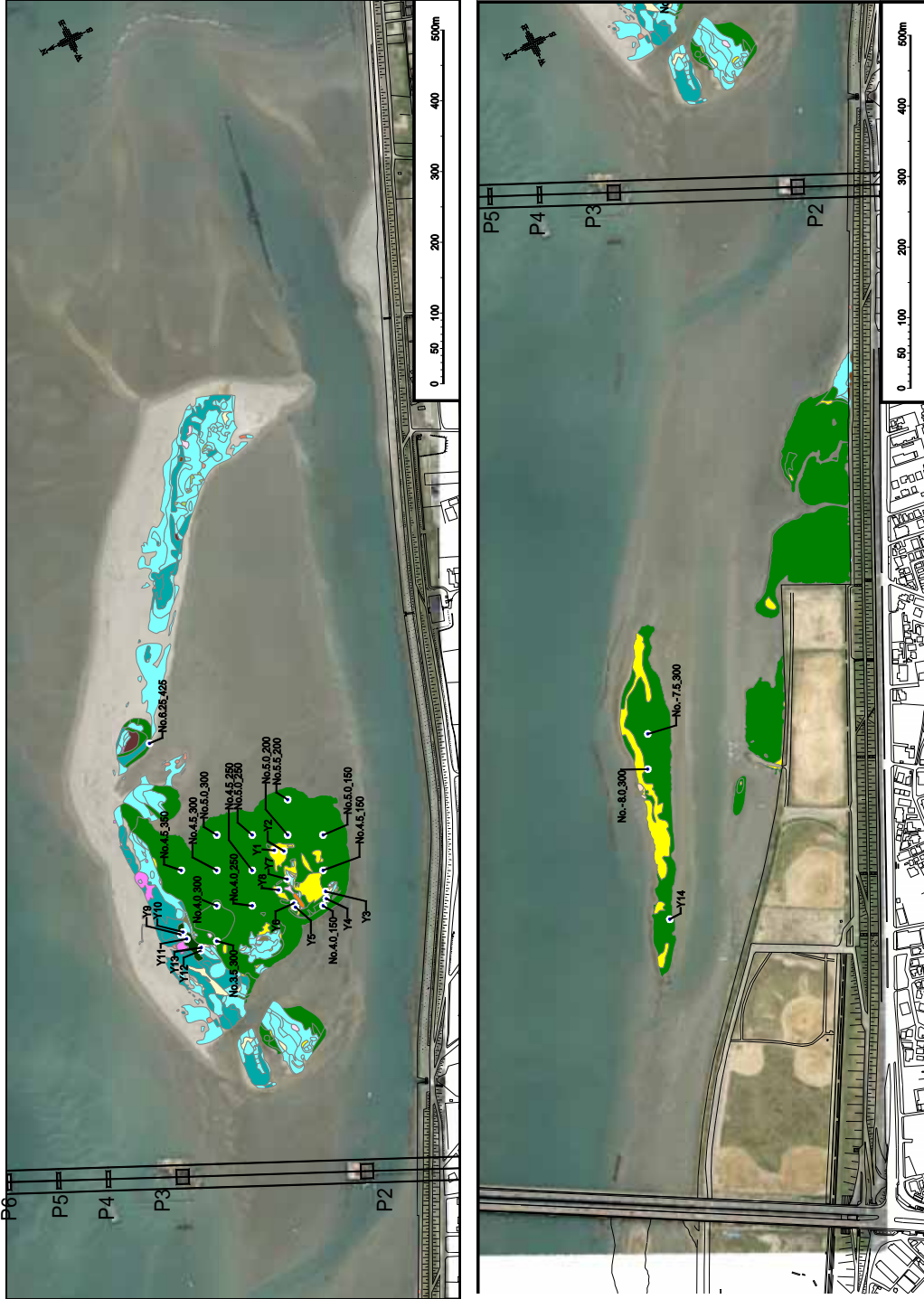


図 1-7-3 オオヨシキリ繁殖状況調査（営巣地、営巣地周辺）

1-8 稀少種について

現地調査において確認された鳥類の中から稀少種を抽出した。下に記した4文献( ~ )と渡り鳥などの渡り状況を追跡するためのフラッグを付けた種( )を選定した。

その結果、ミヤコドリとチドリ科2種、シギ科5種が抽出された。

表 1-8-1 稀少種の出現状況

	目名	科名	和名	4月29日	5月3日	9月8日	9月9日	9月23日	11月18日	11月19日	備考
				生息状況	飛翔状況	生息状況	飛翔状況	生息状況	生息状況	生息状況	
1	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ								NT
2		チドリ	シロチドリ								VU
3			オオチドリ								NT
4		シギ	トウシギ								
5			ハマシギ								
6			コハシギ								
7			キアシシギ								
8			ホウシギ								
	1目	3科	8種	6種	3種	6種	5種	5種	4種	1種	8種

注1:文献「日本産野生動物目録 - 本邦産野生動物の種の現状 - 環境庁編 脊椎動物編 1993年」

注2:「」は調査時間外に調査範囲で確認した種

注3:「チドリ科・シギ科の一種」は種類数、個体数に含める

注4:個体数は全カウントの延べ数

注5:備考の丸数字は注目すべき種の選定基準番号

注6:備考の はすべて、調査日以外で確認された標識付きの個体である

注7:備考の丸数字は注目すべき種の選定基準番号

国の天然記念物及び特別天然記念物(文化財保護法 1950)

特天:特別天然記念物 天:天然記念物

絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律(1993) 記載種

内:国内希少野生動物 外:国際希少野生動物

改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物 - レッドデータブック - 鳥類

(環境省編 2002) 記載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 A類 EN:絶滅危惧 B類

VU:絶滅危惧 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

LP:絶滅のおそれのある地域個体群

徳島県の絶滅のおそれのある野生動物 - 徳島県版レッドデータブック -

(徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会 2001) 記載種

EX:絶滅 CR+EN:絶滅危惧 類 VU:絶滅危惧 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群 AN:留意

フラッグまたは標識付きのシギ・チドリ類などの鳥類

1-8-1 標識付きの鳥類について

今年度、吉野川河口において、確認したフラッグまたは標識付きの鳥類の詳細を表 2-5-2 に示す。

表 1-8-2 フラッグまたは標識付きの鳥類

No.	種 和名	確認日	場所	フラッグ or 標識		放鳥地	備考
				部位	色		
1	キアシシギ	H18.7.21～7.26	吉野川河口干潟	右足ふ脛 左足ふ蹠	白フラッグ メタルリング	ニュージーランド北島	日本初記録
2	トウネン	H18.7.29	吉野川河口干潟	右足ふ脛 右足ふ蹠	黄フラッグ メタルリング	オーストラリア北西部	1993.5に徳島県の蓮田に飛来を確認した個体
3	キアシシギ	H18.8.12～8.22	吉野川河口干潟	左足ふ脛 左足ふ蹠 右足ふ蹠	青フラッグ 白フラッグ メタルリング	千葉県小櫃川河口	
4	ハシシギ	H18.10.22～10.23 H18.10.25	吉野川河口干潟	左足ふ脛 左足ふ蹠	青フラッグ 白フラッグ	千葉県谷津干潟	両フラッグともに先端下部斜切した三角フラッグ 徳島県初記録
5	ハシシギ	H18.11.3～11.5 H18.11.11	吉野川河口干潟	左足ふ脛 右足ふ脛 右足ふ蹠	緑フラッグ 黄カラーリング メタルリング	アラスカ	緑フラッグ上に黄カラーリング 徳島県初記録



キアシシギ



トウネン

(撮影：白井恒夫、日本野鳥の会  
徳島県支部会員)

#### 1-9 ホウロクシギ調査

ホウロクシギは、冬をオーストラリア周辺で過ごし、夏は繁殖のためにシベリア周辺で過ごす。このオーストラリア - シベリア間の中継地として日本を利用している、全長 60cm を超える大型のシギ類である。日本で観察している個体は、春にオーストラリアからシベリアへ、秋にシベリアからオーストラリアへの移動中のものである。

1998年3月21日に訪れた個体は送信機装着個体で、その記録から、同年の1月29日にオーストラリアのモートン島で放鳥されたものであることが判明した。吉野川河口干潟までの距離は約7500km、吉野川河口干潟で9日間滞在し、ロシアのウラジオストック付近に到達したことがわかっている。



2007年3月17日 住吉干潟グランド脇 船だまり付近  
左3個体がホウロクシギ、右はダイシャクシギ

### 1-9-1 春期飛来状況

ホウロクシギの春期飛来状況をまとめる。

当データは、徳島県在住の笠井正氏の所有するものであり、氏の好意により、ここに掲載する了承を得たものである。

観察は非常に長期におよび、観察範囲も吉野川河口干潟全域が対象とされている。

観察時間は、連続観察ではないものの、ホウロクシギの行動を的確に捉えたものである。新規個体の飛来や繁殖地への飛去をできるかぎり把握するため、早朝・夕刻時の調査に加え、昼間の補足観察までも実施している。

また、氏の観察眼は他の追従を許さないほどに抜きん出ており、詳細・丁寧な探究心は高度な個体群識別・個体識別をも可能にしている。ここに、敬意と感謝を表し、データをまとめる。

表 1-9-1 春期ホウロクシギ飛来数(笠井正氏所有データより抜粋)

	初認		初認以後		合計羽数
	日付	羽数	日付	羽数	
2003年 (平成15年)	3/7	4	4/26	26	30
2004年 (平成16年)	3/5	1	3/6 4/10	11 8	20
2005年 (平成17年)	3/5 (10:50)	2	3/5(13:30) 3/5(16:40) 3/12 以後5/7まで	6 7 12 95	122
2006年 (平成18年)	3/2	1	3月 4月 5月	57 43 6	106
2007年 (平成18年)	3/8	1	3/18時点	34	35

2006年の調査は詳細であるため、紙面の都合で月毎の表記とした。  
調査日はほぼ毎日行われており、合計羽数は真値に迫るものであると判断される。

ここ数年、春期の初飛来は、若干のズレはあるものの3月初旬である。毎年の春期飛来数は100羽前後であることが推定できる。

### 1-9-2 ホウロクシギの分布状況

主要な分布地区として、A～Eの5つのブロックが示されている。

特に河口干潟（ブロックB）と住吉干潟（ブロックD・E）では観察数・時間が多く、分布の中心となっていた。

一方、東環状大橋付近（ブロックC）は、ブロック間の移動の際に少し立ち寄りといった程度で観察数・時間は少なかったが、以前は水門前の干潟にも分布していたのが観察されていることから、進行中である工事が影響していることも考えられる。

また、河口干潟の下流域の砂州（ブロックA）は、主に一時的な休息及び、飛来時や飛去の際の休息する地区として利用しているのが観察されている。

（以上、平成17年度調査報告書より抜粋）



図 1-9-1 ホウロクシギの分布概況図(平成17年度調査報告書より抜粋)

今年度、3月17日の飛翔状況調査時に確認できたホウロクシギは6羽である。内訳は、前日より確認できた個体が4個体であり、当日午後3時頃に飛来したものが2個体である。くわえて、ダイシャクシギを1羽、前日より確認の4個体は帯同していた。

行動は、まさしく、前年度通りであり、「重要分布地区」間を移動した。

前日より確認できた4個体は、早朝7時頃、ブロックCからブロックCのすぐ西側の「稀な分布地区」にかけて採餌・休息を行っていた。

8時から10時、4個体群は住吉干潟(ブロックD)と河口干潟間(ブロックC)を往き来し、10時過ぎにブロックDの西側の「重要分布地区」へ移動した。2時頃まで同地区もしくは、東側の「重要分布地区」で採餌・休息を行い、一端ブロックE「重要分布地区」付近で休息し、3時過ぎにはブロックB「重要分布地区」付近へ移動してきた。

丁度その頃(3時過ぎ)、ブロックA「重要分布地区」に飛来した新規2個体は1時間ほど休息した後、一端北西へ舞い上がり旅立ちを思わせたが、ブロックB「重要分布地区」付近に舞い戻った。

6個体群となった4時過ぎ、ブロックB「重要分布地区」で採餌・休息を繰り返し、5時過ぎにはブロックC「重要分布地区」に移動し採餌・休息を行った。その後、6時過ぎまで同地区で採餌・休息行動を確認した。

新規参入の2個体と前日より確認できていたダイシャクシギは、6時以降に北へと飛去したと考えられ、後日(3月18日)の生息状況調査時においては、確認できなかった。



ここに、底生動物調査結果から、コメツキガニ・チゴガニ・ヤマトオサガニの秋期の分布図を示す。分布図中には、今年度、全5回の鳥類生息状況調査(干潮時前後2時間)で確認したホウロクシギの分布位置を重ねた。

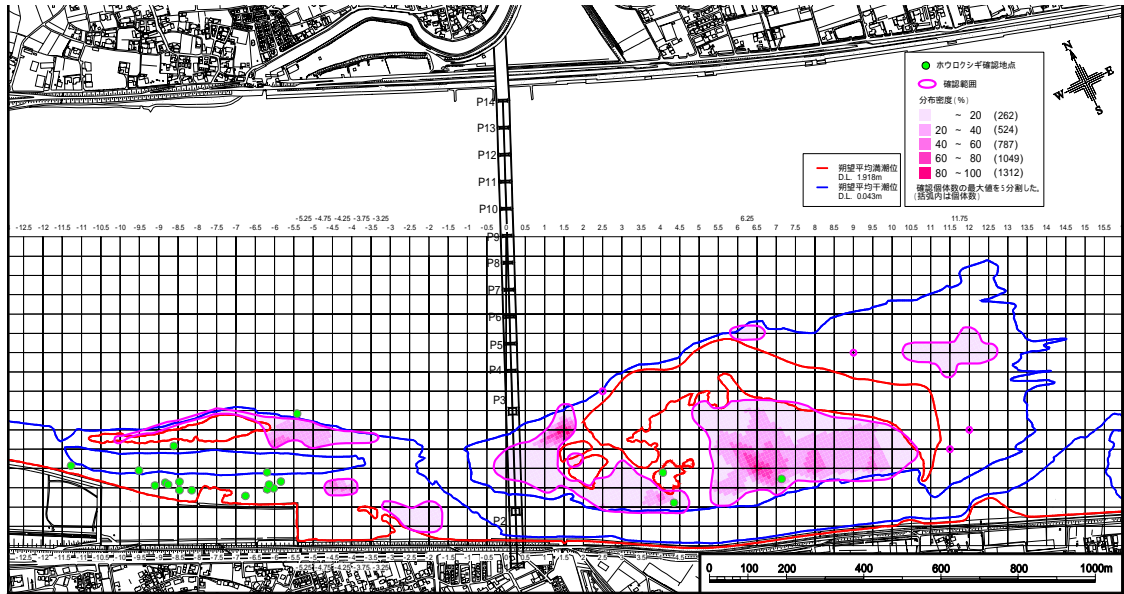


図 1-9-2 コメツキガニ分布図(2006.10)とホウロクシギ分布図

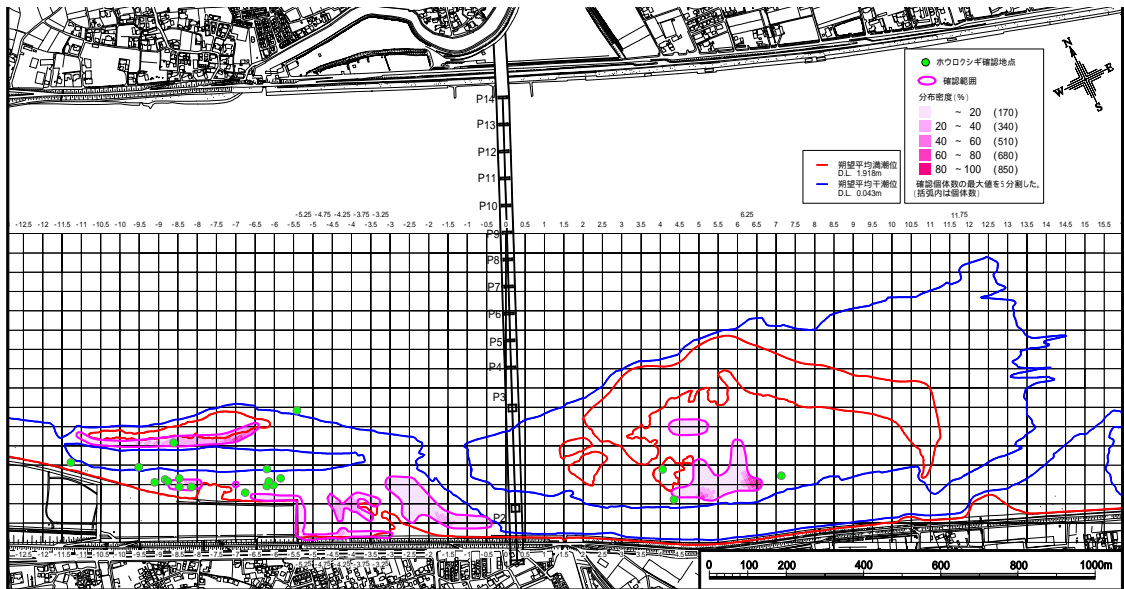


図 1-9-3 チゴガニ分布図(2006.10)とホウロクシギ分布図

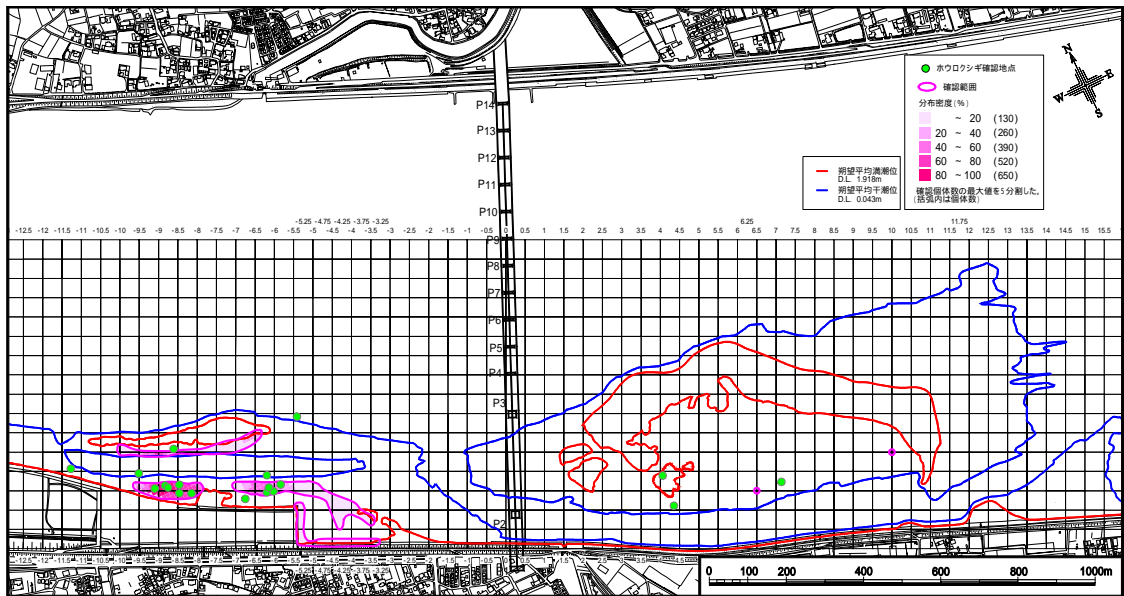


図 1-9-4 ヤマトオサガニ分布図(2006.10)とホウロクシギ分布図

前に示した「図 2-6-1 ホウロクシギの分布概況図(平成 17 年度調査報告書より抜粋)」の地点(重要分布地区)とカニ 3 種の分布高密度地点と今年度のホウロクシギの分布地点が非常に近似する。

### 1-9-3 ホウロクシギの採餌行動

ホウロクシギの採餌状況の観察を行った。

観察にはビデオを用い、撮影した映像を室内において詳細に検証することとした。撮影は5分間連続とし、9月23日に4回(計20分間)、3月17日に18回(計90分)実施した。3月17日の18回の撮影のうち、1回はダイシャクシギに対して実施した。合計22回、総撮影時間110分間の採餌行動観察である。

表 1-9-2 ホウロクシギ採餌行動観察結果一覧表

2006.9.23									備考
吉野川河口干潟:ブロックC									
	撮影時間		捕獲動物				他の行動		
	開始	終了	カニ類	二枚貝	不明	合計	排泄	ペリット	
1	12:41	12:46	5			5	1		全て 同一個体
2	12:46	12:51	1			1	1		
3	12:54	12:59	4		14	18	1	1	
4	13:13	13:18	6		2	8	1		
計			16		16	32	4	1	

2007.3.17									個体 識別 No.
9時台は、吉野川河口干潟:ブロックC 他は、住吉干潟グランド脇:ブロックDの西側 - 「重要分布地区」									
	撮影時間		捕獲動物				他の行動		
	開始	終了	カニ類	二枚貝	不明	合計	排泄	ペリット	
1	9:14	9:19			5	5			1
2	9:54	9:59			2	2			2
3	10:07	10:12	3			3	1		3
4	10:17	10:22					2		1
5	10:22	10:27	4			4			2
6	10:38	10:43	2			2	1		ダイシャクシギ
7	10:44	10:49	5			5			2
8	10:50	10:55	2			2			2
9	11:10	11:15	2			2			2
10	11:19	11:24	5	1		6			2
11	11:25	11:30	4			4	1		2
12	11:34	11:39	2			2	1		4
13	11:44	11:49	2			2	1		4
14	11:51	11:56	2			2			1
15	11:57	12:02	9		4	13			3
16	12:04	12:09	3			3			3
17	12:13	12:18	2			2			1
18	12:22	12:27	1			1	1		2
計			48	1	11	60	8		

注)各5分間の連続撮影

合計22回の観察において、餌量を捕獲できなかったのは1回であった。他の観察時においては、最低1匹の捕獲に成功している。

合計22回、110分の採餌行動観察時における捕獲動物数は92個体であり、平均すると4.18個体/5minとなる。

捕獲動物は、ほとんどがカニ類であった。全捕獲動物の種識別は困難であるが、一部においては、その大きさや底生動物調査結果などから、種識別が可能であった。住吉干潟ではヤマトオサガニやチゴガニ、河口干潟ではコメツキガニが餌量となっていると判断できる。

住吉干潟のブロックDでの140分の観察の間、10分程度の小休止を2回とった。ホウロクシギ4個体とダイシャクシギ1個体が同地区で採餌をしており、小休止もほぼ同時であった。

3月17日当日は、午前7時に当個体群を発見した後、調査終了の午後6時まで上記したペース(60分採餌・10分小休止)でほぼ活動していた。つまり、延べ8~9時間程度を採餌に費やし、延べ1~2時間程度の小休止であったと考えられる。

2007年3月17日、1個体のホウロクシギが8時間の採餌行動で捕獲した底生動物数は、約400匹と推定される。



2006.4.19 住吉干潟グランド脇裸地(泥干潟)  
ヤマトオサガニを捕らえた

他のシギ・チドリ類の採餌シーンも示す。



2006.5.3 オソリハシギ 小カニ



2006.5.3 アオシギ 小魚



2006.5.3 キアシギ アサギヤコ類



2006.5.3 キアシギ ヤマトオサガニ



2006.5.3 ダケン アサギコ類



2006.5.3 チウシヤクシ 小加



2006.5.3 ハマシ 甲殻類らしき



2006.5.3 メタ仔ドリ アサギコ類



2006.4.20 撮影：沖洲海岸

ミヤコドリ

河口砂州に飛来することを願ったが、調査日には来てくれなかった。



英名通り、カキを捕らえた。

#### 1-9-4 まとめ

シギ・チドリ類の吉野川河口干潟における利用状況や行動をまとめる。

##### <種数・個体数>

春の渡り期2回、秋の渡り期3回、それぞれの調査日の干潮時前後2時間という時間帯において、1時間毎の計5回、限りなく重複を避けるように計数した結果は以下の通りである。

- ・各調査日の出現種数：7～16種
- ・全調査日の出現種数：19種
- ・各調査日の1時間毎の出現個体数：58～2499個体

春と秋の渡り期のルートはそれぞれ異なっており、また、年毎に変化するものである。経年調査によるデータの蓄積から当地を訪れるシギ・チドリ類の羽数を把握し続けることが重要である。

今年度最も多く当地を訪れた種はハマシギであり、その数は2006年11月18日調査の干潮時2時間前のエリア2においての2,319羽であった。

指標種であるハウロクシギは、春の渡り期(3月上旬から5月上旬)に約100羽前後が、当地を利用している。

##### <干潟の利用状況>

シギ・チドリ類は、渡りの途中の休息場・エネルギー補給地(採餌場)として、当地を利用している。フラッグ付きシギ・チドリ類が5羽確認できており、当地は、非常に過酷な太平洋沿岸の「渡り」の途中のなくてはならない場である。

ハウロクシギの採餌行動観察(計110分の撮影調査)において、約4匹/5分の採餌能力がみえてきた。3月上旬から5月上旬にかけての2ヶ月で、100羽がそれぞれ、1日滞在・8時間採餌をした場合、約40,000匹の底生動物(主にカニ類:コメツキガニ・チゴガニ・ヤマトオサガニ)を捕食する計算になる。この食欲に応じることのできる当地は、非常に豊かであり、重要な場であると考えられる。

##### <飛翔状況>

吉野川大橋の高高度に対して、東環状大橋は低高度であった。東環状大橋は橋桁がない状況であるため、橋の飛翔に対する影響の把握には、今後の追跡調査が重要である。

##### <繁殖状況>

当地での営巣を確認できた鳥類は、オオヨシキリ、カルガモ、ハシボソガラス、トビであった。他に、ヒバリ、セッカなども繁殖をしているようであるが、営巣の確認はできなかった。

ヨシ原を営巣地として利用するオオヨシキリについては、今年度、河口干潟には8個体、住吉干潟(中洲)には4個体の雄の縄張りがあると推定された。営巣の確認はそのうち、河口干潟で13巣(6個体分)、住吉干潟で1巣(1個体分)を確認した。